

設置の趣旨等を記載した書類
(目次)

1	設置の趣旨及び必要性	P. 2
2	学部・学科等の特色	P. 10
3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 11
4	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 13
5	教員組織の編成の考え方及び特色	P. 21
6	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 25
7	施設、設備等の整備計画	P. 34
8	入学者選抜の概要	P. 38
9	取得可能な資格	P. 45
10	実習の具体的計画	P. 47
11	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	P. 49
12	昼夜開講制を実施する場合の具体的計画	P. 51
13	編入学を設定する場合の具体的計画	P. 51
14	2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画	P. 51
15	社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画	P. 53
16	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	P. 53
17	通信教育を実施する場合の具体的計画	P. 53
18	管理運営	P. 53
19	自己点検・評価	P. 53
20	情報の公表	P. 53
21	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 54
22	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 54

農 学 部

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

【大阪府立大学における農学系学部の変遷】

大阪公立大学（仮称）として統合前の母体大学の一つである大阪府立大学は旧来、農学系の教育研究組織を保有してきた。明治 21 年設立の大阪府立農学校を前身とし、昭和 24 年に設置された浪速大学に農学部が設けられた。その後、大学名称は大阪府立大学に変更され、農学部が設置された。平成 12 年には全学で大学院の部局化が進められ、平成 17 年には大阪府が有する 3 大学（大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学）の統合と法人化を機に、農学部から生命環境科学部へと再編された。平成 24 年には学域・学類制度の導入により当時の理学部を内包した自然科学類（理学部から改称）、応用生命科学類、緑地環境科学類、獣医学類の 4 学類からなる生命環境科学域が誕生した。今回の大阪公立大学（仮称）の設置に当たっては自然科学類（現在は理学類）、獣医学類がそれぞれ新たに学部となり、現状の応用生命科学類と緑地環境科学類を母体とする新しい農学部を設置する。新しい農学部設置の背景、趣旨を以下に述べる。

【人類が向きあっている課題】

今日、私たちは国内外で多くの課題に直面している。大きな課題の一つは持続可能なエネルギー及び資源の確保である。現在の主たるエネルギー資源である化石資源には限りがあり、その代替えとして期待されてきた原子力には安全性の問題があることなどから、国内外でより安全性の高い代替エネルギー及び資源の創出・確保が求められている。そのような状況の下、既開発エネルギーの利用効率の向上や再生可能なバイオマス資源の有効活用を図ることは持続可能な社会の形成に必要不可欠となっている。

また、異常気象の頻発化に象徴される気候変動や、その排出削減が喫緊の課題とされている温室効果ガスなどによる影響にも対応した健全な自然環境の保全及び修復も急務である。さらに、人口増加と途上国の発展による食生活の変化などに起因する食料問題が近い将来に生じることが予想されており、世界規模での食料の奪い合いの結果として国内での食料問題も懸念される。

国内に目を向ければ、成長期においては、都市化の進展によって、今日の成熟期においては、特に里地・里山に見られる管理放棄された土地の増大などによって、都市あるいはその周辺にある自然地を含む都市圏における自然環境の劣化に起因する環境問題が私たちの生活を脅かしている。特に大都市大阪においては、都市環境問題は解決すべき喫緊の課題である。また、医療の進歩に伴い平均寿命が延び高齢化が進む中、健康寿命の延伸もこれからの課題である。

【新しい農学が担う役割】

上述の課題の解決に農学という学問分野は広範囲にわたり貢献できる。農学は狭い意味での第一次産業としての農業を対象とする学問分野と捉えられることもあるが、実際には生物の機能と生命現象の解明や応用に加えて、自然環境、自然現象の理解、また、それらの調和と持続的な利用など多岐にわたる学問分野を内包している。換言すれば、多くの学問分野との融合領域を内包しており、これまでも人類が抱える諸問題の解決に貢献してきた。

20 世紀の終盤以降、農学においてもバイオサイエンスやバイオテクノロジーは重要な位置を占め、生物全般を対象とした科学の発展とともに、食料生産のみならず、物質生産、エネルギー生産あるいは環境修復などへの展開が図られるようになってきた。また、旧来の農学が担ってきた食料生産はもとより食品の安全性や機能性など食に関する種々の学問分野を主として担うのも農学である。農業分野に目を向ければ遺伝情報や遺伝子操作技術の有効利用が農作物の品種改良に革命をもたらしつつある。また、植物工場や精密農業と呼ばれる新しい農業生産技術も飛躍的に進展している。農学は生物多様性の保全などの自然環境や豊かな生活環境の形成などの都市環境も教育研究の対象としている。近年、その必要性が重要視されているバイオエコノミーの研究開発においても農学の果たす役割は大きい。さらに、国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）に対しても農学分野における教育研究は大いに貢献できる。

また、農学の大きな特徴として、「実学」あるいは「応用科学」である点が挙げられる。真理の探究が科学として重要であることは言うまでもないが、その成果を社会に役立てることも同等に重要であり、旧来より農学はこれを指向してきた。つまり、農学では、その研究成果を産業化を含む社会貢献に活かすことを念頭においた研究開発が行われている。教育に関しても産業界あるいは行政において活躍できる人材の輩出を念頭に置いている。

母体となる大阪府立大学では、平成 17 年から学部・学域の名称として「生命環境科学」を用いてきた。生命環境科学は、生命科学と環境科学を融合させた造語であり、国内の大学の一部でも農学系の教育研究領域を示すものとして使用されている。しかし、学生にとっては教育研究の内容が若干分かりにくくなっているのも事実である。また、生命科学と環境科学だけでは、生物による生産を意味する農学本来の役割が失われたように見えることもある。そこで、大阪公立大学（仮称）に設置する学部としては、これまで発展してきた生命科学及び環境科学に加え、生物による生産を含む教育研究領域を意味する新たな学部という位置づけで、改めて「農学部」を設置することとした。

【農学部が果たす役割】

大阪公立大学（仮称）に設置される農学部の重要な役割の一つは人材育成つまり教育である。学部の規模から広範囲な農学分野の全てを担うことはせず、農学を広く俯瞰するとともに各学科において生物学、化学、生態学及び環境学をキーワードとした人類が向き合う課題の解決に役立つ教育を行う。農学は幅広い学問分野を包括するため、広い視野を有した人材育成のための教育を実施し、行政も含む農学が関連する地域社会やグローバルな分野で活

躍できる専門技術者を輩出する。特に大阪公立大学（仮称）が大阪に設置される公立大学であることから大阪の産業界や地方自治体、あるいは教育分野において活躍できる人材育成を念頭に大阪に固有の問題を意識した教育も行う。研究面においては農学の関連する様々な産業分野へ貢献する。大阪府下あるいは関西圏の産業への貢献の優先度は高い。例えば、創薬開発は製薬企業の発祥の地である大阪で行われるべき教育研究の一つである。大都市ならではの近郊農業の課題克服も新しい農学部が挑戦すべき課題である。大阪という大都市を対象としたスマートシティ構想の推進や地方自治体の都市及び地域計画、自然環境の保全・修復のためのシンクタンク機能も期待される。地域にとらわれることなく、グローバルに通用する高度な基礎研究も展開する。また、農学部の研究目標は、複数のSDGsを内包しており、例えば最近注目されている持続可能な社会の構築に重要な役割を果たすバイオエコノミー研究を推進する。

また、新しい農学部の母体となる現状の応用生命科学類と緑地環境科学類の入学者選抜試験の競争率は総じて高い。大阪府立大学の一般入学試験（前期日程）における過去5ヶ年度の競争倍率は、応用生命科学類では2.4から3.3倍（平均倍率2.8倍）、緑地環境科学類では2.3倍から4.7倍（平均倍率3.3倍）で推移している。大阪公立大学（仮称）の農学部においても、長期的かつ安定的に学生の確保が見込まれる。加えて、「学生の確保の見通し等を記載した書類」のとおり、本学部においては、長期的かつ安定的に学生を確保することができることが明確である。

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

（教育目的）

農学部では多様な生命体や自然環境が持つ仕組みや働きを生物学、化学、生態学及び環境学をはじめとする様々な観点から理解させることに重点をおいた教育を行う。そして、その知見を「生物資源の確保と有効利用」、「持続可能な食生産と消費」、「豊かな生活環境形成」、「生物文化多様性の保全・創出」、「健康問題への貢献」などに活用する能力を有し、関連する産業分野あるいは行政などで活躍できる専門職業人を育成する。加えて豊かな教養とコミュニケーション能力、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けさせる。

（ディプロマポリシー）

農学部は、本学部の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 学科毎に複数の学問分野の基礎となる知識を修得し、自然現象を生物学、化学あるいは生態学及び環境学の観点から捉えることのできる能力を身に付けている。

- DP3. 学科毎に学修した基礎知識を関連する産業分野あるいは行政などに有効に利用するための技術など農学の応用分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野（複数可）

生産農学、農芸化学、環境農学、農業工学、生物科学、基礎生物学、ゲノム科学などに関する学術領域について研究する。

エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等
特になし

応用生物科学科

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

今日、私たちが直面している課題の一つに、生物の潜在能力の有効活用による循環型社会、つまりバイオエコノミー社会の構築が挙げられる。農学は従来からその課題解決の鍵であるが、21世紀に入り大きな変革期を迎えている。例えば、食料問題は、供給量の問題に留まらず、機能性や安全性の付与、そして生産から消費までをも内包する多面的問題として捉えられる。食料の生産量や安全性の確保にはゲノム解読とその情報を利用した遺伝子工学、分子レベルからの生物資源の作出や包括的生体分子分析技術などが重要な役割を果たす。作物生産の基盤は、成長生理ならびに生物間相互作用の理解と成長量や栄養状態の計測に基づくデータサイエンスを活用した精密農業に支えられる。生物由来エネルギーの確保については生物生産技術に留まらずその有効利用法の確立が求められている。こうした研究開発には生物の根本的な仕組みを深く理解することが不可欠なことは言うまでもない。そこで、こうした諸問題の解決に貢献できる人材の育成を目的として、「応用生物科学科」を設置し、「食料の安定確保」をはじめとする「持続可能な循環型社会の構築」などに生物科学を活用するための教育研究を行う。

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

(教育目的)

応用生物科学科では、生物の多様な潜在能力を人類の生活に役立てることを目的とした教育を行う。主に植物を対象とし、食料や資源、有用物質の生産、確保あるいは環境保全などに生物科学を活用し持続可能な社会の構築に貢献するための知識を修得させる。分子生物学に代表される遺伝子レベルの知識からフィールド科学までの幅広い範囲での知識に加え、データ科学にも重点を置く教育を行うことで、農業や食品・化学・環境・エネルギー分野の産業に加え情報産業などの広範な領域で活躍できる多様性に富んだ専門職業人を育成する。加えて豊かな教養とコミュニケーション能力、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けさせる。

(ディプロマポリシー)

応用生物科学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 分子生物学、遺伝学などを学修し、生物の仕組みを多角的に理解するとともに、データ科学に関する基礎能力を身に付けている。
- DP3. 植物を中心とした様々な生物の機能を探索・開発し、食料や資源の生産を通じた持続可能な循環型社会の創生に貢献するための技術開発に関する幅広い知識を学修し、応用生物科学分野に関する高度な専門技術を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野（複数可）

植物科学、遺伝学、作物・園芸学、植物病理学、植物栄養学、食品科学、分子細胞生物学、ゲノム生物学などに関する学術領域について研究する。

エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等

特になし

生命機能化学科

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

今日、私たちが直面している喫緊の課題の一つにエネルギー・原材料の化石資源依存からの脱却が挙げられる。その解決手段の一つとしてバイオマスなどの再生可能資源の有効利用が期待されているが、バイオマスを有効あるいは高度利用するためには、様々な生物機能の基本的仕組みを理解し、それらを応用するための技術開発能力を持った人材の育成が不可欠である。また、高齢化や飽食の時代における健康問題も解決すべき大きな課題である。特に日本では医学の進歩により人生 100 年の時代と言われ、健康に年を重ねていくために解決すべき課題は山積している。これらの課題の解決においても生物機能の理解と応用が大きな役割を果たす。すなわち、食品の物性・機能性・安全性の評価、天然資源からの創薬開発、創薬標的分子の解明などに貢献できる人材の育成が必要とされている。そこで、これらの社会的問題を解決することができる人材の育成を目的として、「生命機能化学科」を設置し、様々な生命体を持つ機能を、主として化学的視点から「生物資源の高度利用」や「現代社会における健康問題解決」などに活用するための教育研究を行う。

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

(教育目的)

生命機能化学科では、動物、植物、微生物といった枠組みにとらわれることなく、生命現象について分子、細胞、個体レベルで理解させることに重点をおいた教育を行う。同時に、様々な生命体が織り成す生態系、環境についても、物質循環、分子間相互作用といった概念で捉えさせる。さらに、生物資源や生命機能を生活や産業さらには環境保全・修復などへ活用するための教育を行い、食品産業、医薬品工業、健康産業、化学工業、資源・エネルギー産業、環境産業などバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる広範な領域で活躍できる専門職業人を育成する。加えて豊かな教養とコミュニケーション能力、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けさせる。

(ディプロマポリシー)

生命機能化学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。

DP2. 生化学、有機化学、微生物学などのバイオサイエンス・バイオテクノロジーの基礎となる知識を修得し、生命現象を分子レベルで捉えることのできる能力を身に付け

ている。

- DP3. 生物が作り出す様々な資源や生物の優れた機能を生活や産業さらに環境保全などに有効に利用するための技術など生命機能化学の応用分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習、演習、卒業研究などを通して、研究に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学における高い探求心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野（複数可）

応用微生物学、応用生物化学、生物有機化学、食品科学などに関する学術領域について研究する。

エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等
特になし

緑地環境科学科

1 設置の趣旨及び必要性

ア 学部等設置の理由及び必要性

今日、私たちが直面している課題として地球規模での環境問題や都市圏における自然環境の劣化に伴う環境問題が挙げられる。人類の豊かで持続的な発展には、人間活動による環境に対する負荷の低減、都市と自然との共生の促進、生態学的に健全な都市圏の形成、そして都市圏の持続的発展と循環型社会の構築が求められる。そのためには、人間活動を含めた生態系の中で環境や生物群における様々な現象や相互作用によって形成されるエコシステムを解明し、地域の抱える多様な環境問題に対処するためのリージョナルサイエンスに基づく科学的知識と技術が重要となる。生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を含む緑地環境の計測、評価手法、保全・創成技術、持続的なマネジメント手法を学び、その知識を都市圏における「豊かな生活環境形成」と「生物文化多様性の保全・創出」に応用するための教育研究を行うことで現代社会の要請に応える高度な人材育成を行うために「緑地環境科学科」を設置する。

イ 人材養成の方針及びディプロマポリシー

(教育目的)

緑地環境科学科では、生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を取り巻く環境の保全・創成を目的とした教育を行う。環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりを科学的に理解し、評価するための知識や技術と、緑地環境を望ましい状態に維持し、管理するための技術を修得させる。都市及びその周辺の農地や森林を含めた都市圏において、持続可能な地域を実現するためのエコロジカルデザイン、人類の豊かな生活環境と生産環境の維持、増進、さらには、自然資源の保全や管理に関わる広範な領域で活躍できる専門職業人を育成する。加えて豊かな教養とコミュニケーション能力、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力、高い倫理観と創造力を通して、社会の多方面で活躍できる能力を身に付けさせる。

(ディプロマポリシー)

緑地環境科学科は、本学科の教育目的に基づき、以下の能力を身に付けたものに学士（農学）の学位を授与する。

- DP1. 自然科学をはじめとする幅広い教養とコミュニケーション能力を身に付けている。
- DP2. 緑地学や農業工学、生態学や環境学などから構成される緑地環境科学の基礎となる知識を修得し、緑地環境に関わる広範な課題を多角的に捉えることのできる能力を身に付けている。
- DP3. 緑地環境を適切な指標を用いて計測、診断、評価し、緑地環境の保全及び管理を実践するための技術など緑地環境科学分野に関する高度な専門知識を身に付けている。
- DP4. 実験・実習・演習、卒業研究などを通して、緑地環境科学に関する研究及び専門技術に関する基礎的な技能を身に付けるとともに、自主的、論理的な思考と記述力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、問題解決能力を身に付けている。
- DP5. 科学及び専門技術における高い倫理観を有し、信念を持って行動できる能力を持つとともに、卒業後も科学及び技術における高い探究心を持ち、継続して学修する能力を身に付けている。

ウ 研究対象とする中心的な学問分野（複数可）

地域環境工学、農村計画学、農業環境工学、農業情報工学、生物資源保全学、環境動物昆虫学、ランドスケープ科学などに関する学術領域について研究する。

エ 教育研究上の数量的・具体的な到達目標等

特になし

2 学部・学科等の特色

農学部の特徴

生物学、化学、環境学それぞれの視点から生物、自然現象を識るとともにその知識を社会で有効に活用する教育を実施するために、農学部には「応用生物科学科」、「生命機能化学科」、「緑地環境科学科」の3学科を設ける。加えて、大都市立地であること、農学という学際的な学問分野の特色を利用し、中百舌鳥キャンパスの教育研究フィールドや植物工場研究センターとの連携を通して食生産科学副専攻（獣医学部と連携）、植物工場科学副専攻（工学部と連携）という複数の副専攻を設ける。さらに、大都市大阪の地域性から都市緑化など、都市開発への農学の貢献に関する教育などを通して大阪府市行政への人材輩出も行う。こうした都市を特徴とした教育に留まらず「生物資源の確保と有効利用」、「持続可能な食生産と消費」、「豊かな生活環境形成」、「生物文化多様性の保全・創出」、「健康問題への貢献」などをキーワードとするグローバルな研究開発につながる教育研究を行う。教育体制としては少人数教育の特長を活かし、密度の高い双方向型の教育を行い、長期的展望に立って現象の本質を洞察し理解する論理的思考力とコミュニケーション能力を身に付けさせる。上述の教育研究を通して国際的に注目される基礎研究や地域産業への貢献を目指した応用研究やその出口となる産業技術の開発への視点も併せ持つ専門職業人と大学院に進学して高度専門職業人並びに研究者を目指す人材を養成する。

(1) 応用生物科学科の特色

応用生物科学科では幅広い農学分野においても生物科学に主眼を置いて分子生物学や細胞生物学、ゲノム生物学などの基礎生物学から育種学、植物病理学、植物栄養学などの実践的学問分野までの幅広い教育を行うことが特色の一つである。データサイエンスも重視しバイオインフォマティクスの教育にも力点を置く。生物科学の知見を応用することにより持続的成長が可能となる社会形態、即ちバイオエコノミーを意識させることも特色である。また、各学問分野に対応する実験・実習を実施し、座学に留まらず能動的な学びの機会を与える。特に中百舌鳥キャンパスの教育研究フィールドでの農場実習を通して植物の生産を実地で経験させる。また機械制御も含めて植物工場に関する知識を学ぶための「植物工場科学副専攻」を設ける。さらに、生産現場から消費地までの食の流通に関して学ぶための「食生産科学副専攻」を設けるとともに、学科のカリキュラムを通して、食品衛生管理者・食品衛生監視員としての任用資格を得ることができる。以上の教育を通してバイオ産業、食品産業、農業関連産業あるいは関連する行政分野において活躍できる専門職業人を養成する。

(2) 生命機能化学科の特色

生命機能化学科では、バイオサイエンス・バイオテクノロジーにかかわる専門職業人の養成を目指し、その化学的な側面を重視した教育研究を行うことを特徴とする。すなわち、生

化学・分子生物学、有機化学、酵素化学、物理化学、微生物学などの知識を基盤に、動物、植物、微生物などあらゆる生物の生命現象や生命機能の仕組みなど生命科学の基礎について分子レベルでの理解を深めさせる。同時に、生物資源や生命機能を、化学に関する知識や手法を駆使することにより、生活や産業さらには環境保全・修復などに有効に利用するための応用領域に関する教育も重視する。これらを相互有機的に連携、補完させることにより、ますます多様化、学際化するバイオサイエンス・バイオテクノロジー領域に的確に対応し得る教育研究が進められる。また、化学の知識を基盤として、食品衛生管理者・食品衛生監視員としての任用資格を備え、食品の製造、加工、貯蔵から食品衛生、健康科学に至る幅広い知識を有する専門職業人の養成を目的としたカリキュラムコースとして「食品安全科学プログラム」を設け、食品産業や健康産業の発展、さらには食品安全行政にも積極的に貢献する。

(3) 緑地環境科学科の特色

緑地環境科学科は、農業気象学、環境調節学、農業機械学、農業土木学、農業昆虫学、造園学などの農学を支えてきた各分野を基礎として、緑地学や農業工学、生態学や環境学などを統合させた学問分野である。緑地環境科学科では、自然生態系や都市環境の構成要素である大気、水、土、生物といった環境要素と人間生活文化との関わりを対象に、個々の要素あるいは相互の関係性を正確に計測、診断、評価するための技術や、生態学的に健全な都市圏を保全、創成するための計画技術やエコロジカルデザイン技法、緑地環境の管理手法について体系的に教育研究できることを特徴とする。これらを通じて、都市から農地や森林に至る都市圏の持続可能な地域を創出するためのエコシステムマネジメントや土地利用計画とともに、人類の持続的で健全な生活の基盤となる生産環境の維持・増進、また、バイオマスなどの自然資源の保全や管理に貢献する専門職業人を育成する。さらに、都市及び都市圏での生産環境の維持・増進に向けて、省スペースで高収益な生産技術を学ぶための「植物工場科学副専攻」を設ける。

3 学部・学科等の名称及び学位の名称

ア 学部・学科等の名称及び当該名称とする理由

農学部

農学は生物機能を中心とした多岐にわたる学問分野を内包し、人類の生活や地球環境の維持に貢献している。農学教育を行う日本国内の大半の大学が農学という学部名称を用いている。大阪府立大学では農学部から生命環境科学部、生命環境科学域と学部・学域名称が変遷した経緯はあるが、獣医学類、理学類の独立を機に大阪公立大学（仮称）では全国的にも認知度の高い「農学部」を用いる。

(1) 応用生物科学科の名称の理由

本学科は、生物の成り立ちを遺伝子、細胞、個体のレベルから多角的に理解させる教育を行うとともに、ゲノム情報の有効利用、遺伝子改変、代謝物の解析などを通じて植物を中心とした生物の遺伝、成長や生物間相互作用などに関する研究を行う。それら生物の仕組みに関する知見を、持続可能で環境に配慮したエネルギーの確保や安全な食料の安定供給などに応用することを目的とする領域であることから、応用生物科学科とした。

(2) 生命機能化学科の名称の理由

本学科は、最先端のバイオサイエンスとバイオテクノロジーについて教育し、かつこれらの技術を駆使した研究を行い、動物・植物・微生物などの生物における多彩な生命現象・生命機能の仕組みや生物が生産する物質の分子構造や機能を明らかにし、その成果を食品・医薬品・化学品生産や資源利用に応用することを目的として、生命機能を化学的視点から解明・応用する領域であることから、生命機能化学科とした。

(3) 緑地環境科学科の名称の理由

本学科は、生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を含む環境の保全・創成に向けて、環境の要素となる大気、水、土、生物と人間活動との関わりを科学的に理解し、評価するための知識や技術と、緑地環境を望ましい状態に維持し、管理するための技術について探究し、都市及びその周辺の農地や森林を含めた都市圏において、持続可能な地域を創出するためのエコロジカルデザイン、人類の豊かな生活環境と生産環境の維持、増進、さらには自然環境の保全や管理を目的とする緑地環境科学を基礎とする領域であることから、緑地環境科学科とした。

イ 学位の名称及び当該名称とする理由

農学部を構成する3学科の学位は学士（農学）とする。農学部における学位名称は一般的に「農学」であり、分かり易い。

ウ 学部・学科等及び学位の英訳名称

学部名称： 農学部（School of Agriculture）

学科名称： 応用生物科学科（Department of Agricultural Biology）

生命機能化学科（Department of Applied Biological Chemistry）

緑地環境科学科（Department of Environmental Sciences and Technology）

学位名称： 学士（農学）（Bachelor of Agriculture）

4 教育課程の編成の考え方及び特色

農学部

ア 教育課程の編制方針（カリキュラムポリシー）

農学部のディプロマポリシー（DP1～DP5）に掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。（DP1）
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。（DP1、DP5）
- CP3. 農学部での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。（DP1）
- CP4. 農学全体における農学部の位置づけや各学科間の学問との関連性を理解させるために、1年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。（DP1、DP2、DP5）
- CP5. 各学科での学修に必要な基本的な専門知識を身に付けさせるために、学科基礎科目を配置する。（DP2）
- CP6. 各学科での専門的知識を修得させるために、講義科目としての学科専門科目を体系的に配置する。（DP3、DP5）
- CP7. 各学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。（DP2、DP3、DP4、DP5）

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

イ 教育課程の概要及び特色

農学領域でそれぞれの学科が対象とする広範囲な領域で活躍できる専門職業人の養成を目的に、その基礎となる専門的な知識と技術を身に付けさせる。

授業科目は、基幹教育科目と専門科目に区分し、基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に、そして専門科目は学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目に細分化し、学生にとってそれぞれに配置された授業科目の位置づけが分かりやすいものとする。

基幹教育科目では、幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力

を修得するとともに、各学科での学修に必要な基礎的知識や技能を修得させるため、講義科目、演習科目及び実験・実習科目を必修あるいは選択科目として配置し、主として1・2年次に履修させる。

専門科目（学部共通科目）としての「農学概論」は、農学分野全体の意義や方向性を理解させるとともに、農学における各学科の位置づけを認識させ、合わせて他学科における学問との関連性を理解させるために、必修講義科目として配置し、1年次に履修させる。

専門科目（学科基礎科目）は、各学科における専門的知識の基盤として修得すべき講義科目及び演習科目を必修あるいは選択科目として配置し、主として2年次に履修させる。

専門科目（学科専門科目）は、各学科における専門的知識を幅広く修得させるために、講義科目を配置し、一部の必修科目を除き、学生の興味や将来の方向性を考慮して選択できる科目を開講し、主として3年次に履修させる。また、各学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力の基盤として修得すべき実験・実習科目を必修科目として配置し、主として2・3年次に履修させる。さらに、各学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力を発展・向上させるために、各学科が「卒業研究」を必修科目として配置するとともに、講義科目及び演習科目を選択科目として配置し、主として4年次に履修させる。

基幹教育科目、専門科目（学部共通科目）、専門科目（学科基礎科目）及び専門科目（学科専門科目）を学年次毎に体系的に配置することで、単一科目だけの学修にとどまらず、科目間の知識・技能の連携により最大限の学修効果が得られるよう工夫しており、農学領域の幅広い分野で活躍できる専門的知識・技能、問題解決能力、コミュニケーション能力を持った専門職業人を育成することが可能となる。

応用生物科学科では「食生産科学副専攻」と「植物工場科学副専攻」を、生命機能化学科では「食品安全科学プログラム」を、緑地環境科学科では「植物工場科学副専攻」を設置し、自由科目を含む副専攻科目などを配置し、特色ある教育を行う。

(1) 応用生物科学科

ア 教育課程の編制方針（カリキュラムポリシー）

応用生物科学科のディプロマポリシー（DP1～DP5）に掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。（DP1）
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。（DP1、DP5）
- CP3. 応用生物科学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。（DP1、DP2）

- CP4. 農学における応用生物科学の位置づけや他学科における学問との関連性を理解させるために、1 年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。
（DP1、DP2、DP5）
- CP5. 応用生物科学での学修に必要な生化学、分子生物学、遺伝学、情報科学などの基本的な専門知識を身に付けさせるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。
（DP2）
- CP6. 応用生物科学における専門的知識を修得させるために、講義科目としての専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。（DP3、DP5）
- CP7. 応用生物科学における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。（DP2、DP3、DP4、DP5）
- CP8. 食料の生産・流通、安全・安心に関する専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「食生産科学副専攻」を設置する。（DP3、DP4、DP5）
- CP9. 植物工場生産に関わる専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「植物工場科学副専攻」を設置する。（DP3、DP4、DP5）

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

イ 教育課程の概要及び特色

応用生物科学の幅広い研究分野にかかわる専門職業人の養成を目的に、その基礎となる専門的な知識と技術を身に付けさせる。本学科の標準コースでは、分子生物学に代表される遺伝子レベルの科学からフィールド科学まで応用生物科学の幅広い研究分野を体系的に理解し研究を実践できる能力を身に付けるために必要な科目群を配置する。

授業科目は、基幹教育科目と専門科目に区分し、基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に、そして専門科目は学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目に細分化し、学生にとってそれぞれに配置された授業科目の位置づけが分かりやすいものとする。

基幹教育科目では、幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を修得させるために、総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、英語及び初修外国語、健康・スポーツ科学科目（講義及び実習）を必修あるいは選択必修科目として配置し、主として1年次に履修させる。さらに、本学科での学修に必要な基礎的知識や技能を修得させるため、数学、物理、生物、化学などの基礎教育科目（講義及び実習）を必修あるいは選択科目として配置し、1年次に履修させる。

専門科目（学部共通科目）としての「農学概論」は、農学分野全体の意義や方向性を理解

させるとともに、農学における本学科の位置づけを認識させ、合わせて他学科における学問との関連性を理解させるために、必修講義科目として配置し、1年次に履修させる。

専門科目（学科基礎科目）は、本学科における専門的知識の基盤として修得すべき講義科目を必修科目として配置し、主として2年次に履修させる。

専門科目（学科専門科目）は、本学科における専門的知識を幅広く修得させるために、講義科目を配置し、一部の必修科目を除き、学生の興味や将来の方向性を考慮して選択できる科目を開講し、主として3年次に履修させる。また、本学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力の基盤として修得すべき実験・実習科目を必修科目として配置し、2・3年次に履修させる。さらに、本学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力を発展・向上させるために、「応用生物科学課題研究」と「応用生物科学英語」を必修科目として3年次に、「応用生物科学卒業研究」を必修科目として4年次に配置する。

基幹教育科目、専門科目（学部共通科目）、専門科目（学科基礎科目）及び専門科目（学科専門科目）を学年次毎に体系的に配置することで、単一科目だけの学修にとどまらず、科目間の知識・技能の連携により最大限の学修効果が得られるよう工夫しており、応用生物科学に関わる幅広い分野で活躍できる専門的知識・技能、問題解決能力、コミュニケーション能力を持った専門職業人を育成することが可能となる。

一方、以下の2つのプログラムを設置し、専門技術者の育成も行う。

<食生産科学副専攻>

食料の生産・流通、安全・安心に関する専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「食生産科学副専攻」を獣医学部とともに設置する。「食料生産実習」、「国際食料流通演習」、「食料流通安全評価実習」、「総合衛生管理学実習」などの実践的な科目とそれらの基盤知識を教授する講義科目を必修科目として配置する。また、応用生物科学科及び獣医学部で開講する食料の生産・流通、安全・安心に重要な科目を選択科目として配置する。

<植物工場科学副専攻>

植物工場生産に関わる専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「植物工場科学副専攻」を工学部機械工学科及び緑地環境科学科とともに設置する。「植物工場実習」、「植物工場科学演習」など実践的な科目とそれらの基盤知識を教授する「バイオ工学」、「機械生産管理」、「植物工場科学」、「植物環境制御学」などの講義科目を必修科目として配置する。また、応用生物科学科、緑地環境科学科及び工学部機械工学科で開講する植物工場に関連する科目を選択科目として配置する。

単位数については大学設置基準（第21条）に基づき定められた、新大学における単位設定に関する方針に従って適切な単位数を設定する。

【資料 1-1 農学部応用生物科学科 カリキュラムマップ】

(2) 生命機能化学科

ア 教育課程の編制方針（カリキュラムポリシー）

生命機能化学科のディプロマポリシー（DP1～DP5）に掲げる能力を修得させるため、以下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。（DP1）
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。（DP1、DP5）
- CP3. 生命機能化学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるため、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。（DP1、DP2）
- CP4. 農学における生命機能化学科の位置づけや他学科における学問との関連性を理解させるために、1 年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。（DP1、DP2、DP5）
- CP5. 生命機能化学科での学修に必要な生化学、有機化学、微生物学などの基本的な専門知識を身に付けさせるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。（DP2）
- CP6. 生命機能化学科における専門的知識を修得させるために、講義科目としての専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。（DP3、DP5）
- CP7. 生命機能化学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを養うために、実験・実習・演習科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。（DP2、DP3、DP4、DP5）
- CP8. 食の安全・安心に関する専門家の育成を目指し、食品安全科学分野に特化した専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「食品安全科学プログラム」を設置する。（DP3、DP4、DP5）

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

イ 教育課程の概要及び特色

バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる広範な領域で活躍できる専門職業人の養成を目的に、その基礎となる専門的な知識と技術を身に付けさせる。本学科の標準コースでは、化学に基礎を置くバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる科目群を配置する。

授業科目は、基幹教育科目と専門科目に区分し、基幹教育科目は総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に、そして専門科目は学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目に細分化し、学生にとってそれぞれに配置された授業科目の位置づけが分かりやすいものとする。

る。

基幹教育科目では、幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を修得するとともに、本学科での学修に必要な基礎的知識や技能を修得させるため、講義科目、演習科目及び実験・実習科目を必修あるいは選択科目として配置し、主として1・2年次に履修させる。

専門科目（学部共通科目）としての「農学概論」は、農学分野全体の意義や方向性を理解させるとともに、農学における本学科の位置づけを認識させ、合わせて他学科における学問との関連性を理解させるために、必修講義科目として配置し、1年次に履修させる。

専門科目（学科基礎科目）は、本学科における専門的知識の基盤として修得すべき講義科目及び演習科目を必修あるいは選択科目として配置し、主として2年次に履修させる。

専門科目（学科専門科目）は、本学科における専門的知識を幅広く修得させるために、講義科目を配置し、一部の必修科目を除き、学生の興味や将来の方向性を考慮して選択できる科目を開講し、主として3年次に履修させる。また、本学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力の基盤として修得すべき実験・実習科目を必修科目として配置し、2・3年次に履修させる。さらに、本学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力を発展・向上させるために、「生命機能化学卒業研究」を必修科目として配置するとともに、講義科目及び演習科目を選択科目として配置し、4年次に履修させる。

基幹教育科目、専門科目（学部共通科目）、専門科目（学科基礎科目）及び専門科目（学科専門科目）を学年次毎に体系的に配置することで、単一科目だけの学修にとどまらず、科目間の知識・技能の連携により最大限の学修効果が得られるよう工夫しており、バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる幅広い分野で活躍できる専門的知識・技能、問題解決能力、コミュニケーション能力を持った専門職業人を育成することが可能となる。また、在学中に教育課程の一環として将来のキャリアに関連する就業体験を行うために、「生命機能化学インターンシップ」を選択科目として配当する。

一方、食品分野に特化した専門職業人の養成を目指したカリキュラムコースとして「食品安全科学プログラム」を設置し、食の安全・安心に関する専門的知識・技能を持った人材の育成も行う。本プログラム履修者には、必修科目として食品衛生学、食品衛生学実習を加え、さらに他学部・学科開講の科目（食料安全科学、毒性学、獣医公衆衛生学）を選択科目として配当し、食の安全・安心に関する専門的知識・技能を修得させる。

単位数については大学設置基準（第21条）に基づき定められた、新大学における単位設定に関する方針に従って適切な単位数を設定する。

【資料1-2 農学部生命機能化学科 カリキュラムマップ】

（3）緑地環境科学科

ア 教育課程の編制方針（カリキュラムポリシー）

緑地環境科学科のディプロマポリシー（DP1～DP5）に掲げる能力を修得させるため、以

下の教育課程を提供する。

- CP1. 論理的思考力や文章による表現力など大学での学びの基礎となる力を養うために、基幹教育科目（初年次教育科目）を配置する。（DP1）
- CP2. 幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を養うために、基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語科目）、健康・スポーツ科学科目、情報リテラシー科目）を配置する。（DP1、DP5）
- CP3. 緑地環境科学科での学修に必要な基礎的知識・技能を修得させるために、基幹教育科目（基礎教育科目）を配置する。（DP1、DP2）
- CP4. 農学における緑地環境科学科の位置付けや他学科における学問との関連性を理解させるために、1 年次に専門科目（学部共通科目）として「農学概論」を配置する。（DP1、DP2、DP5）
- CP5. 緑地環境科学の専門領域に関わる基礎的知識を修得させるために、専門科目（学科基礎科目）を配置する。（DP2）
- CP6. 緑地環境科学の専門領域に関わる原理やシステムの理解力とその応用力を身に付けさせるために、専門科目（学科専門科目）を体系的に配置する。（DP3、DP5）
- CP7. 緑地環境科学科における専門的スキル、問題解決能力、プレゼンテーション能力などを育成するために、実験・実習・演習科目及び学外実習（インターンシップ）科目として専門科目（学科基礎科目、学科専門科目）を体系的に配置する。（DP2、DP3、DP4、DP5）
- CP8. 研究やプロジェクトを自主的、計画的に遂行するとともに成果をとりまとめる能力を養成するために、少人数の演習科目を配置し、卒業研究を必修とする。（DP4、DP5）
- CP9. 植物工場生産に関する科学と技術を理解し、植物工場産業を支えることのできる素養を備えた人材を育成するため、植物工場科学副専攻の履修対象科目を配置する。（DP2、DP3、DP5）

各科目の学修成果は、定期試験、授業中の小テストや発表などの平常点、レポートなどで評価することとし、その評価方法や基準については、科目毎に授業内容の詳細とあわせてシラバスにおいて明記する。

イ 教育課程の概要及び特色

都市及びその周辺の農地や森林を含めた都市圏において、持続可能な地域を実現するためのエコロジカルデザイン、人類の豊かな生活環境と生産環境の維持・増進、さらには自然資源の保全や管理に関わる広範な領域で活躍できる専門職業人の養成を目的に、その基礎となる専門的な知識と技術を身に付けさせる。そのため、学生が社会人として必要とされる基礎力を身に付け、農学を基礎とする緑地環境科学領域の知識と技術を多様な選択肢の中でより深く体系的に学べるように科目群を配置する。

授業科目は、基幹教育科目と専門科目に区分し、基幹教育科目は総合教養科目、初年次教

育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目に、そして専門科目は学部共通科目、学科基礎科目、学科専門科目に細分化し、学生にとってそれぞれに配置された授業科目の位置づけが分かりやすいものとする。

基幹教育科目では、幅広い教養、多面的な視野、外国語によるコミュニケーション能力を修得するとともに、本学科での学修に必要な基礎的知識や技能を修得させるため、講義科目及び演習科目、実験・実習科目を必修あるいは選択科目として配置し、主として1・2年次に履修させる。

専門科目（学部共通科目）としての「農学概論」は、農学分野全体の意義や方向性を理解させるとともに、農学における本学科の位置づけを認識させ、合わせて他学科における学問との関連性を理解させるために、必修講義科目として配置し、1年次に履修させる。

専門科目（学科基礎科目）は、本学科における専門的知識の基盤として修得すべき講義科目及び実習・演習科目を必修科目として配置し、1年次から2年次に履修させる。

専門科目（学科専門科目）は、本学科における専門的知識を幅広く修得させるために、講義科目を配置し、一部の必修科目を除き、学生の興味や将来の方向性を考慮して選択で講義科目を配置し、主として3年次に履修させる。

また、本学科における専門的技能、問題解決能力、プレゼンテーション能力を発展・向上させるために実習・演習科目を必修科目として配置し、1年次から3年次に履修させ、「緑地環境科学卒業研究」を必修科目として配置し、4年次に履修させる。さらに、社会における専門領域の位置付けを体得し、将来のキャリアを実践的に学ぶために「緑地環境科学インターンシップ」を実習・演習科目の選択科目として配置する。

基幹教育科目、専門科目（学部共通科目）、専門科目（学科基礎科目）及び専門科目（学科専門科目）を学年次毎に体系的に配置することで、単一科目だけの学習にとどまらず、科目間の知識・技能の連携により最大限の学習効果が得られるように工夫しており、緑地環境科学に関わる幅広い分野で活躍できる専門的知識・技能・問題解決能力、コミュニケーション能力を持った専門職業人を育成することが可能となる。

一方、以下のプログラムを設置し、専門技術者の育成も行う。

<植物工場科学副専攻>

植物工場生産に関わる専門技術者を養成するためのカリキュラムコースとして、「植物工場科学副専攻」を工学部機械工学科及び応用生物科学科とともに設置する。「植物工場実習」、「植物工場科学演習」など実践的な科目とそれらの基盤知識を教授する「バイオ工学」、「機械生産管理」、「植物工場科学」、「植物環境制御学」などの講義科目を必修科目として配置する。また、緑地環境科学科、応用生物科学科、及び工学部機械工学科で開講する植物工場に関連する科目を選択科目として配置する。

単位数については大学設置基準（第21条）に基づき定められた、新大学における単位設

定に関する方針に従って適切な単位数を設定する。

【資料 1-3 農学部緑地環境科学科 カリキュラムマップ】

5 教員組織の編成の考え方及び特色

ア 教員組織編成の考え方

(1) 応用生物科学科

応用生物科学科では、生物の多様な潜在能力を人類の生活に役立てることを目的とした教育を行う。食料や資源、有用物質の生産、確保あるいは環境保全などに生物科学を活用し持続可能な社会の構築に貢献するための知識を修得させ、応用生物科学に関する広範な領域で活躍できる多様性に富んだ専門職業人を育成する。本学科で開講する専門科目（講義科目、演習科目、及び実験・実習科目）のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置する。さらに、農学部、及び本学科の設置趣旨、特色並びに教育課程編成の考え方などを踏まえて、応用生物科学分野の中核をなす専門科目（講義科目、演習科目、実験・実習科目）については、教育・研究並びに実務経験において優れた知識、能力、及び実績を有する教授 7 名、准教授 8 名、講師 5 名、助教 1 名の合計 21 名を担当者として配置する計画である。さらに、「応用生物科学基礎実験 A・B・C」、「フィールド実習 A・B」などの実験・実習科目については、ティーチング・アシスタントを配置し、教育指導体制の充実を図る。また、専任教員は教授会、各種委員会などの組織を通じて、教育研究の遂行や学部管理の運営に責任を持って取り組む。

令和 7 年度からの各年次の教育は、森之宮キャンパス（1 年次）及び中百舌鳥キャンパス（2～4 年次）の 2 校地で行うが、学科専任教員による 1 年次開講科目（森之宮キャンパス）の担当に関しては、一部の専任教員に負担が集中しないようにすることで、中百舌鳥キャンパスでの教育や研究指導に支障が生じないようにする。

(2) 生命機能化学科

生命機能化学科では、化学に基礎をおくバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関わる広範な領域で活躍できる専門職業人の養成を目的に、その基礎となる専門的な知識と技術を身に付けさせ、バイオサイエンス・バイオテクノロジーの基礎から応用までを網羅する専門教育を行う。本学科で開講する専門科目（講義科目、演習科目、及び実験・実習科目）のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置する。さらに、農学部、及び本学科の設置趣旨、特色並びに教育課程編成の考え方などを踏まえて、生命機能化学分野の中核をなす専門科目（講義科目、演習科目、実験・実習科目）については、教育・研究並びに実務経験において優れた知識、能力、及び実績を有する教授 8 名、准教授 9 名、講師 2 名、助教 3 名の合計 22 名を担当者として配置する計画である。さらに、「生物有機化学実験」などの実験・実習科目については、ティーチン

グ・アシスタントを配置し、教育指導体制の充実を図る。また、専任教員は教授会、各種委員会などの組織を通じて、教育研究の遂行や学部管理の運営に責任を持って取り組む。

令和7年度からの各年次の教育は、森之宮キャンパス（1年次）及び中百舌鳥キャンパス（2～4年次）の2校地で行うが、学科専任教員による1年次開講科目（森之宮キャンパス）の担当に関しては、一部の専任教員に負担が集中しないようにすることで、中百舌鳥キャンパスでの教育や研究指導に支障が生じないようにする。

（3）緑地環境科学科

緑地環境科学科では、生命の基盤となる農地や自然地、都市緑地を取り巻く環境の保全・創成に向けて、環境の要素となる大気、土、水、生物と人間活動との関わりを科学的に理解し、評価するための知識や技術と、緑地環境を望ましい状態に維持し、管理するための技術を修得させるための専門教育を行う。本学科で開講する専門科目（講義科目、実習・演習科目）のうち、必修科目を中心とした教育上主要と認める科目については、専任の教授または准教授を担当者として配置する。さらに、農学部、及び本学科の設置主旨、特色並びに教育課程編成の考え方を踏まえて、緑地環境科学分野の中核をなす専門科目（講義科目、実習・演習科目）については、教育・研究並びに実務経験において優れた知識、能力、及び実績を有する教授7名、准教授9名、講師2名、助教4名の合計22名を担当者として配置する計画である。さらに、「緑地環境科学実習演習入門A・B」などの実験・実習科目については、ティーチング・アシスタントを配置し、教育指導体制の充実を図る。また、専任教員は教授会、各種委員会などの組織を通じて、教育研究の遂行や学部管理の運営に責任を持って取り組む。

令和7年度からの各年次の教育は、森之宮キャンパス（1年次）及び中百舌鳥キャンパス（1～4年次）の2校地で行うが、学科専任教員による1年次開講科目（森之宮キャンパス）の担当に関しては、一部の専任教員に負担が集中しないようにすることで、中百舌鳥キャンパスでの教育や研究指導に支障が生じないようにする。

イ 教員組織編成の特色

（1）応用生物科学科

応用生物科学科の教員は、その教育理念、教育目的を十分に理解した上で教育・研究に専念し、優れた教育力と研究力を有する人間性豊かな教員であることが求められる。また、学術の発展に寄与するために、グローバルに通用する高度な研究を行うことも求められる。そこで教員組織の編成は、本学の教育理念に基づき、文部科学省の設置基準に則った専任教員を配置するとともに、本学部及び本学科の教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するのに必要かつ十分な教員組織を編成し、実験・実習を含めた専門科目の多くを専任教員が担当し、それぞれの専門性を教授できるようにする。主要研究分野は、植物分子育種学、機能ゲノム科学、細胞分子生物学、代謝機能学、植物栄養学、植物病理学、遺

伝育種学、食料安全科学、園芸生産学、及び栽培管理学の10分野である。

(2) 生命機能化学科

生命機能化学科の教員は、その教育理念、教育目的を十分に理解した上で教育・研究に専念し、優れた教育力と研究力を有する人間性豊かな教員であることが求められる。また、学術の発展に寄与するために、グローバルに通用する高度な研究を行うことも求められる。そこで教員組織の編成は、本学の教育理念に基づき、文部科学省の設置基準に則った専任教員を配置するとともに、本学部及び本学科の教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するのに必要かつ十分な教員組織を編成し、実験・実習を含めた専門科目の多くを専任教員が担当し、それぞれの専門性を教授できるようにする。主要研究分野は、発酵制御化学、生物資源循環工学、生理活性物質化学、生体高分子機能学、食品代謝栄養学、食品素材化学、微生物機能開発学、生命分子合成学、及び生物物理化学の9分野である。

(3) 緑地環境科学科

緑地環境科学科の教員は、その教育理念、教育目的を十分に理解した上で教育・研究に専念し、優れた教育力と研究力を有する人間性豊かな教員であることが求められる。また、学術の発展に寄与するために、グローバルに通用する高度な研究を行うことが求められる。そこで教員組織の編成は、本学の教育理念に基づき、文部科学省の設置基準に則った専任教員を配置するとともに、本学部及び本学科の教育目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを実現するのに必要かつ十分な教員組織を編成し、実習・演習を含めた専門科目の多くを専任教員が担当し、それぞれの専門性を教授できるようにする。主要な研究分野は、生態気象学、生物環境調節学、土環境学、水環境学、生産環境学、緑地計画学、緑地保全学、地域生態学、及び環境動物昆虫学の9分野である。

ウ 専任教員の年齢構成

農学部

学部	職名	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
	教授	0	0	3	9	10	22
	准教授	0	0	6	14	6	26
	講師	0	1	6	2	0	9
	助教	0	2	3	1	2	8
	合計	0	3	18	26	18	65

完成年度の令和8年3月31日現在における学部専任教員の年齢構成は、60歳代：18名、50歳代：26名、40歳代：18名、30歳代以下：3名となっており、50歳代以上の層が厚い。この点については、特に熟練した教員の下、中堅、若手を配置するためであり、教員組織と

教育研究の持続性は担保できており、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。さらに、この層の厚さは、学界や関連産業・業界とのネットワークを有する教員の存在が不可欠であると判断したためである。これらの教員は、完成年度以降、順次退職（65歳定年）していくが、その補充に関しては退職する教員の専門領域を勘案しながら、経験豊富で実力のある教員と新進気鋭の若手教員をバランスよく採用し、学部内での年齢層に偏りがないように調整する予定である。

(1) 応用生物科学科

学科	職名	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
応用 生物 科学 科	教授	0	0	2	2	3	7
	准教授	0	0	2	6	0	8
	講師	0	0	3	2	0	5
	助教	0	0	0	0	1	1
	合計	0	0	7	10	4	21

完成年度の令和8年3月31日現在における学科専任教員の年齢構成は、60歳代4名、50歳代10名、40歳代7名（合計21名）となっており、50歳以上の層が厚い。この点については、特に熟練した教員の下、中堅、若手を配置するためであり、教員組織と教育研究の持続性は担保できており、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。さらに、この層の厚さは、学界や関連産業・業界とのネットワークを有する教員の存在が不可欠であると判断したためである。これらの教員は、完成年度以降、順次退職（65歳定年）していくが、その補充に関しては退職する教員の専門領域を勘案しながら、経験豊富で実力のある教員と新進気鋭の若手教員をバランスよく採用し、学科内での年齢層に偏りがないように調整する予定である。

(2) 生命機能化学科

学科	職名	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	計
生命 機能 化学 科	教授	0	0	1	2	5	8
	准教授	0	0	2	5	2	9
	講師	0	1	1	0	0	2
	助教	0	1	1	0	1	3
	合計	0	2	5	7	8	22

完成年度の令和8年3月31日現在における学科専任教員の年齢構成は、60歳代8名、50歳代7名、40歳代5名、30歳代以下2名の合計22名となっており、50歳代以上の層が厚い。この点については、特に熟練した教員の下、中堅、若手を配置するためであり、教員組織と教育研究の持続性は担保できており、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活

性化に支障はない。さらに、この層の厚さは、学界や関連産業・業界とのネットワークを有する教員の存在が不可欠であると判断したためである。これらの教員は、完成年度以降、順次退職（65 歳定年）していくが、その補充に関しては退職する教員の専門領域を勘案しながら、経験豊富で実力のある教員と新進気鋭の若手教員をバランスよく採用し、学科内での年齢層に偏りがないように調整する予定である。

(3) 緑地環境科学科

学科	職名	29 歳以下	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60 歳以上	計
緑地環境科学科	教授	0	0	0	5	2	7
	准教授	0	0	2	3	4	9
	講師	0	0	2	0	0	2
	助教	0	1	2	1	0	4
	合計	0	1	6	9	6	22

完成年度の令和 8 年 3 月 31 日現在における学科専任教員の年齢構成は、60 歳代 6 名、50 歳代 9 名、40 歳代 6 名、30 歳代以下 1 名の合計 22 名となっており、50 歳代以上の層が厚い。この点については、特に熟練した教員の下、中堅、若手を配置するためであり、教員組織と教育研究の持続性は担保できており、教育研究水準の維持向上、及び教育研究の活性化に支障はない。さらに、この層の厚さは、学会や関連産業・業界とのネットワークを有する教員の存在が不可欠であると判断したためである。これらの教員は、完成年度以降、順次退職（65 歳定年）していくが、その補充としては退職する教員の専門領域を勘案しながら、経験豊富で実力のある教員と新進気鋭の若手教員をバランスよく採用し、学科内での年齢層に偏りがないように調整する予定である。

6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 応用生物科学科

ア 教育方法等

本学科の入学定員は、少人数制による質の高い教育の実現を図るため、50 名とする。

1 年次開講の専門科目（学部共通科目）である「農学概論」は、各学科を代表する教員による「農学の基礎」に関する講義をオムニバス方式で受けるため、他学科の学生と合わせて 150 名での講義を行う。次に専門教育の講義科目、演習科目においては、入学定員の 50 名を基本受講者数とする。また、3 年次までの実験・実習科目においては、最大 60 名の学生を収容できる規模の実験室を併設しており、50 名の収容には問題ない。4 年次開講の卒業研究においては、希望する 10 の研究室に各 5 名前後の学生を配属させ、少人数制での指導を受けながら、専門的技能だけでなく、問題解決能力やコミュニケーション能力などを養う。また、全科目の単位数については授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外

の必要な学修などを考慮して、単位数を適切に定めることとする。1年間の授業期間は、試験期間などを含め、35週にわたるとともに、集中講義を除く各授業科目は15週にわたるものとする。集中講義で行う科目には学外非常勤講師による「食品衛生科学」などがあるが、授業内容を集中的に効率よく学修することができる。また、授業内容に関するレポート提出を課すことや、集中講義と試験の間に十分な期間を設けることにより、復習などの授業時間以外の学修時間を十分に確保する。

本学科では、1年次から4年次まで同じクラスで教育を受けることでお互いに刺激し合い交流を深めて、かけがえのない友人関係を育むとともに、経験豊かな教員が face-to-face の教育を行うことで、4年間の大学教育を通じて学習意欲の維持・向上に繋げ、広い視野と思考力の醸成を図る。

— 1 年次 —

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）に加え、専門科目（学部共通科目）である農学概論及び専門科目（学科基礎科目）である基礎生命科学を配当し、基礎学力を身に付ける。

— 2 年次 —

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、基礎教育科目など）に加え、学科基礎科目の講義必修科目（生化学、植物生理学、基礎微生物学、遺伝学、代謝有機化学、ゲノム生物学、分析化学、細胞分子生物学 A 及び B）、演習必修科目（生物統計学演習、バイオインフォマティクス演習）、講義選択科目（バイオエコノミー論、植物病理学、基礎動物生理学、食品衛生科学、食料流通論、植物工場科学）、及び実験・実習必修科目（応用生物科学基礎実験 A 及び B、フィールド実習 A 及び B）を配当し、応用生物科学に関する基礎知識と基礎的な実験技術を修得させる。

— 3 年次 —

専門科目（学科専門科目）の講義必修科目（応用生物学概論）と演習必修科目（応用生物科学英語）、及び選択科目（植物育種学、土壌・植物栄養学、機能ゲノム科学、作物学、植物発生学、植物保護学、食品機能成分学、食料安全科学、HACCP システム論、園芸生産学、栽培管理学）に加え、実験必修科目（応用生物科学基礎実験 C）を配当する。さらに希望する 10 の研究室に各 5 名前後の学生を配属させ、卒業論文のテーマを決定して研究活動を開始する応用生物科学課題研究を配当する。これらの科目により応用生物科学に関する知識をさらに深め、実践的能力を修得させる。さらに在学中の教育課程の一環として将来のキャリアに関する就業体験をするために応用生物科学インターンシップを配当する。

ー 4 年次ー

応用生物科学に関する基礎及び専門技術に加えて論文作成、プレゼンテーション方法の修得に関する科目（応用生物科学卒業研究）を必修科目として配当する。さらに、農業専門職に必要な植物生態学、環境動物昆虫学やバイオビジネスにおける最近の研究動向を教授する高度な専門科目（バイオビジネス論、バイオインダストリー論）を配当し、農業に関わる行政・技術専門職などを担う専門知識と実践力を身に付けた人材を養成する。

イ 履修指導方法

学年次毎に担任教員（学生アドバイザー）を設定し、教育課程及び履修モデルに従い、学生の履修指導（個別指導を含む）を行う。また、研究室配属後には、各研究室の教員が履修指導を担当する。教員間の情報共有を密にし、指導内容の向上や問題の早期解決に努める。

ウ 卒業要件

1. 基幹教育科目

別紙、基幹教育科目より次の(1)～(6)のとおり履修し、30 単位以上（必修 25 単位選択 5 単位以上）修得すること

(1)総合教養科目 10 単位

(2)初年次教育科目 2 単位

(3)情報リテラシー科目 2 単位

(4)外国語科目

英語 6 単位

初修外国語 2 単位

(5)健康・スポーツ科学科目 3 単位

(6)(1)～(5)で単位修得した科目以外を履修し、5 単位以上を修得すること

(7)基礎教育科目 16 単位以上（必修 8 単位 選択 8 単位以上）

2. 専門科目

上記 1 (7)に加え、次の(1)～(4)のとおり履修し、100 単位以上（必修 63 単位 選択 37 単位以上）修得すること

(1)学部共通科目 必修 2 単位

(2)学科基礎科目 必修 20 単位

(3)学科専門科目 必修 33 単位

(4)学科専門科目の選択科目から 29 単位以上

応用生物科学科では上記の単位を卒業要件とする。このうち、学科専門科目に必修科目として「応用生物科学卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は通年 480 時間（実験 400 時間、演習 80 時間）を想定していることから、卒業研

究には8単位を与えることとする。

エ 履修モデル

別図参照【資料2-1 農学部応用生物科学科履修モデル】

オ 多様なメディアの活用

該当なし

カ 履修科目の上限設定

単位の実質化の観点から、予習・復習の時間を含めた十分な学修時間を確保し学習効果を高めるため、年間履修登録単位数の上限を50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）と設定し、これを学生に通知する。また、卒業に必要な単位は、130単位である。

また、成績評価にあたってはGPA制度を採用し、厳格な成績評価に努める。

キ 他大学における授業科目の履修等

該当なし

(2) 生命機能化学科

ア 教育方法等

本学科の入学定員は、少人数制による質の高い教育の実現を図るため、50名とする。

1年次開講の専門科目（学部共通科目）である「農学概論」は、各学科を代表する教員による「農学の基礎」に関する講義をオムニバス方式で受けるため、他学科の学生と合わせて150名での講義を行う。次に専門教育の講義科目、演習科目においては、入学定員の50名を基本受講者数とする。また、3年次までの実験・実習科目においては、最大60名の学生を収容できる規模の実験室を併設しており、50名の収容には問題ない。4年次開講の卒業研究においては、希望する9つの研究室に各6名前後の学生を配属させ、少人数制での指導を受けながら、専門的技能だけでなく、問題解決能力やコミュニケーション能力などを養う。また、全科目の単位数については授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外の必要な学修などを考慮して、単位数を適切に定めることとする。1年間の授業期間は、試験期間などを含め、35週にわたるとともに、集中講義を除く各授業科目は15週にわたるものとする。集中講義で行う科目には学外非常勤講師による「生命機能化学特殊講義A・B」などがあるが、授業内容を集中的に効率よく学修することができる。また、授業内容に関するレポート提出を課すことや、集中講義と試験の間に十分な期間を設けることにより、復習などの授業時間以外の学修時間を十分に確保する。

本学科では、1年次から4年次まで同じクラスで教育を受けることでお互いに刺激し合い交流を深めて、かけがえのない友人関係を育むとともに、経験豊かな教員がface-to-face

の教育を行うことで、4年間の大学教育を通じて学習意欲の維持・向上に繋げ、広い視野と思考力の醸成を図る。

－ 1 年次 －

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）に加え、専門科目（学部共通科目）である農学概論及び専門科目（学科基礎科目）である生化学 1 を配当し、基礎学力を身に付ける。

－ 2 年次 －

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、基礎教育科目など）に加え、専門科目（学科基礎科目）の必修科目（生化学 2、微生物学 1、生物物理化学 1、有機化学 1、有機化学 2、酵素化学、細胞生物学、分子生物学）、及び選択科目（微生物学 2、生物物理化学 2、生物統計学演習、生物無機化学）、専門科目（学科専門科目）の必修科目（生物有機化学実験、生物物理化学実験、有機合成化学実験、バイオインフォマティクス基礎実習、生化学実験）を配当し、バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する基礎知識と基礎的な実験技術を修得させる。

－ 3 年次 －

専門科目（学科専門科目）の必修科目（食品化学、構造生物学、生命機能化学概論、発酵微生物学実験、応用微生物学実験、食品化学実験、分子生物学実験）、及び選択科目（有機構造解析学、生物資源利用学、生体分子合成法、分子遺伝学、糖質科学、栄養生化学、発酵生理学、天然物化学、応用酵素学、応用微生物学、生物制御化学、食品製造学など）を配当し、バイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する専門知識と基礎的な実験技術を修得させる。さらに在学中の教育課程の一環として将来のキャリアに関する就業体験をするために生命機能化学インターンシップを配当する。

－ 4 年次 －

希望する 9 つの研究室に各 6 名前後の学生を配属させ、卒業研究のテーマを決定する。卒業研究を遂行するために必要な基礎及び専門技術、及び卒業論文作成・発表方法の修得に関する科目（生命機能化学卒業研究）を必修科目として配当する。また、英語論文読解や英語論文作成などに関する選択科目（生命機能化学科学英語 A・B）を配当し、最先端の専門知識や専門技術を修得するとともに、卒業論文作成に取り組む姿勢の向上を目指す。さらに、卒業後の進路を見据えた高度な専門科目（学科専門科目）として、バイオビジネス論、バイオインダストリー論などを配当し、専門職業人としての実践力を身に付けた人材を養成する。

イ 履修指導方法

学年次毎に担任教員（学生アドバイザー）を設定し、教育課程及び履修モデルに従い、学生の履修指導（個別指導を含む）を行う。また、研究室配属後には、各研究室の教員が履修指導を担当する。教員間の情報共有を密にし、指導内容の向上や問題の早期解決に努める。

ウ 卒業要件

1. 基幹教育科目

別紙、基幹教育科目より次の(1)～(6)のとおりに履修し、30 単位以上（必修 25 単位選択 5 単位以上）修得すること

(1)総合教養科目 10 単位

(2)初年次教育科目 2 単位

(3)情報リテラシー科目 2 単位

(4)外国語科目

英語 6 単位

初修外国語 2 単位

(5)健康・スポーツ科学科目 3 単位

(6)(1)～(5)で単位修得した科目以外を履修し、5 単位以上を修得すること

(7)基礎教育科目 16 単位以上（必修 10 単位 選択 6 単位以上）

2. 専門科目

上記 1 (7)に加え、次の(1)～(4)のとおりに履修し、100 単位以上（必修 62 単位 選択 38 単位以上）修得すること

(1)学部共通科目 必修 2 単位

(2)学科基礎科目 必修 18 単位

(3)学科専門科目 必修 32 単位

(4)学科基礎科目・学科専門科目の選択科目から 32 単位以上

生命機能化学科では上記の単位を卒業要件とする。このうち、学科専門科目に必修科目として「生命機能化学卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要な時間数は通年 480 時間（実験 400 時間、演習 80 時間）を想定していることから、卒業研究には 8 単位を与えることとする。

エ 履修モデル

別図参照【資料 2-2 農学部生命機能化学科 履修モデル】

オ 多様なメディアの活用

該当なし

カ 履修科目の上限設定

単位の実質化の観点から、予習・復習の時間を含めた十分な学修時間を確保し学習効果を高めるため、年間履修登録単位数の上限を50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）と設定し、これを学生に通知する。また、卒業に必要な単位は、130単位である。

また、成績評価にあたってはGPA 制度を採用し、厳格な成績評価に努める。

キ 他大学における授業科目の履修等

該当なし

(3) 緑地環境科学科

ア 教育方法等

本学科の入学定員は、少人数性による質の高い教育の実現を図るため、50名とする。

1年次開講の専門科目（学部共通科目）である「農学概論」は、各学科を代表する教員による「農学の基礎」に関する講義をオムニバス方式で受けるため、他学科の学生と合わせて150名での講義を行う。

次に専門教育の講義科目、実習・演習科目においては、入学定員の50名を基本受講者数とする。また、3年次までの実習・演習科目においては、最大60名の学生を収容できる規模の実習・演習室を併設しており、50名の収容には問題ない。4年次開講の専攻セミナー1・2、卒業研究においては、希望する9つの研究室に6名前後の学生を配属させ、少人数制での指導を受けながら、専門的スキルだけでなく、問題解決能力やコミュニケーション能力などを養う。また、全科目の単位数については授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外の必要な学修などを考慮して、単位数を適切に定めることとする。1年間の授業期間は、試験期間などを含め、35週にわたるとともに、集中講義を除く各授業科目は15週にわたるものとする。集中講義で行う科目には、4年次前期に配置する「社会調査論」があるが、授業内容を集中的に効率よく学修することができる。また、授業内容に関するレポート提出を課すことや、集中講義と試験の間に十分な期間を設けることにより、復習などの授業時間以外の学修時間を十分に確保する。

本学科では、1年次から4年次まで同じクラスで教育を受けることでお互いに刺激しあい交流を深めて、かけがえのない友人関係を育むとともに、経験豊かな教員がface-to-faceの教育を行うことで、4年間の大学教育を通じて学習意欲の維持・向上に繋げ、広い視野と思考力の醸成を図る。

－1年次－

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、初年次教育科目、情報リテラシー科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、健康・スポーツ科学科目、基礎教育科目）に加え、学部共通科目である農学概論及び専門科目（学科基礎科目）である自然環境保全論（環境倫理を含む）を配当し、基礎学力を身に付ける。さらに、農場での栽培や自然観察、学内の樹林や樹林地での管理作業体験などを含む緑地環境科学実習演習入門 A・B を配当し、2 年次以降の専門科目を効率的に理解するための基礎的な知識を修得させる。

－2 年次－

全学共通の基幹教育科目（総合教養科目、外国語科目（英語、及び初修外国語）、基礎教育科目など）に加え、専門科目（学科基礎科目）の必修科目（植物形態分類学、植物生態学、動物形態分類学、動物生態学、気象学、植物環境生理学、計測工学、緑地水文学、地盤工学、緑地学原論、環境マネジメント論）と専門科目（学科専門科目）の選択科目（環境気候学、環境生態学、構造力学、水理学）に加え、講義必修科目と連動して実施する必修科目の測量学、測量学実習、さらに、実習・演習の必修科目（緑地環境科学実習演習基礎 A・B）を配当し、緑地環境科学に関する基礎的な知識と基礎的な技術を修得させる。

－3 年次－

専門科目（学科専門科目）の選択科目（生態気象学、植物環境制御学、生産環境システム学、生物生産工学、環境材料論、環境施工法（職業倫理を含む）、土壌物理学、水環境管理学、緑地保全学、環境緑化学、環境動物昆虫学、ランドスケープデザイン、都市緑地計画学、エコロジカルプランニング、循環型社会システム論、地域環境経済学、都市計画など）を学生の興味や関心、資格取得を鑑みながら、農学を基礎とする緑地環境科学領域の知識と技術を多様な選択肢の中でより深く体系的に学べるように、選択科目を配当する。加えて、実習・演習の必修科目（緑地環境科学実習演習応用 A・B）、英語論文や国際誌の講読と発表を通じたディベートを課す演習形式の必修科目の緑地環境科学英語を配当し、緑地環境科学に関する専門的な技術を修得させるとともに、実社会で生じる問題に対する解決能力を養成する。さらに、学習と実務とを結び付け、学生の学習のさらなる深化と将来の自己の職業適性について考え、高い職業意識の育成を図るために緑地環境科学インターンシップを配当する。

－4 年次－

専門科目（学科専門科目）の必修科目（専攻セミナー1・2、及び緑地環境科学卒業研究）を配当し、指導教員のもとで卒業研究のテーマを決定し、テーマに基づいて調査、データ収集、結果の分析・解析、考察、結論を導き、卒業研究の完成に向けて、研究室活動を充実させる。卒業研究を通じて、応用能力、問題解決能力、科学的プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を養成するとともに、緑地環境科学領域にわたる研究やプロジェクト

を自主的、計画的に推進する能力を養成する。

さらに、卒業研究を進めるにあたり、それと並行して学ぶ社会調査論を専門科目（学科専門科目）の集中講義として配当し、実習・演習の選択科目として、学外でのフィールド実習を中心に行う「里地里山管理学実習」を配当し、実社会における里地里山の生態系の成り立ちとその保全方法について学び、他学科提供の専門科目の選択科目（土壌・植物栄養学、植物病理学）を配当し、緑地環境を望ましい状態に維持し、運営管理するための技術手法の応用力を身に付けた人材を養成する。

イ 履修指導方法

1 年次及び 2 年次の年度当初に、履修モデルを用いて、履修ガイダンスを行うとともに、学年次毎に担任教員（学生アドバイザー）を設定し、教育課程及び履修モデルに従い、学生の履修指導（個別指導を含む）を行う。また、研究室配属後には、各研究室の教員が履修指導を担当する。教員間の情報共有を密にし、指導内容の向上や問題の早期解決に努める。

ウ 卒業要件

履修方法に示す 1 及び 2 の履修により、130 単位以上修得すること

1. 基幹教育科目

別紙、基幹教育科目より次の(1)～(6)のとおり履修し、30 単位以上（必修 25 単位選択 5 単位以上）修得すること

- | | |
|---|---------------------------|
| (1)総合教養科目 | 10 単位 |
| (2)初年次教育科目 | 2 単位 |
| (3)情報リテラシー科目 | 2 単位 |
| (4)外国語科目 | |
| 英語 | 6 単位 |
| 初修外国語 | 2 単位 |
| (5)健康・スポーツ科学科目 | 3 単位 |
| (6)(1)～(5)で単位修得した科目以外を履修し、5 単位以上を修得すること | |
| (7)基礎教育科目 | 14 単位以上（必修 10 単位 選択 4 単位） |

2. 専門科目

上記 1 (7)に加え、次の(1)～(3)のとおり履修し、100 単位以上（必修 66 単位 選択 34 単位以上）修得すること

- | | |
|-----------|---------------------|
| (1)学部共通科目 | 必修 2 単位 |
| (2)学科基礎科目 | 必修 30 単位 |
| (3)学科専門科目 | 必修 24 単位 選択 30 単位以上 |

緑地環境科学科では上記の単位を卒業要件とする。このうち、学科専門科目に必修科目として「緑地環境科学卒業研究」を置き、卒業論文作成を卒業要件に含める。卒業論文に必要

な時間数は通年 480 時間（実験 400 時間、演習 80 時間）を想定していることから、卒業研究には 8 単位を与えることとする。

エ 履修モデル

別図参照【資料 2-3 農学部緑地環境科学科 履修モデル】

オ 多様なメディアの活用

該当なし

カ 履修科目の上限設定

単位の実質化の観点から、予習・復習の時間を含めた十分な学修時間を確保し学習効果を高めるため、年間履修登録単位数の上限を 50 単位未満（前期 25 単位以下、後期 25 単位以下）と設定し、これを学生に通知する。また、卒業に必要な単位は、130 単位である。

また、成績評価にあたっては GPA 制度を採用し、厳格な成績評価に努める。

キ 他大学における授業科目の履修等

該当なし

7 施設、設備等の整備計画

ア 校地・運動場の整備計画

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

イ 校舎等施設の整備計画

教育研究に使用する施設、設備等

農学部において教育研究を行う施設、設備については、「大阪公立大学・大学院設置の趣旨等を記載した書類」に記載のほか、森之宮キャンパスに新たに建設する新校舎の施設と大阪府立大学の中百舌鳥キャンパスの施設・設備などを継承する次の施設、設備などにより実施することから、学生、教員に対して十分な教育研究環境を提供するものである。

1) 講義室・演習室・研究室等

農学部では、授業の形態に応じて講義室や演習室などの施設を使用し、専任教員には研究室を割り当て、学部教育と大学院教育を実施する。農学部における施設概要は次のとおりである。

【施設概要】

・講義室 23 室

- ・演習室 12 室
- ・研究室 82 室（教員室を含む）
- ・実習室 106 室（実習室、実験室、分析室の他、関連諸室を含む）

2) 実験施設・設備等

農学部における実験の授業科目は、106 室ある実験室において実施する。

農学部の各学部における実験施設関連・設備などは次のとおりである。

【応用生物科学科 実験施設・設備等】

実験台、試薬棚、椅子、局所排気装置（ドラフト）、安全キャビネット、電子天秤、pH メータ、純水製造装置、超純水製造装置、製氷機、冷蔵庫、冷凍庫、ディープフリーザ、凍結乾燥機、オートクレーブ、乾熱滅菌器、クリーンベンチ、ロータリーエバポレーター、インキュベーター（孵卵器）、振とう培養機、CO₂ インキュベーター、マルチビーズショッカー（多検体細胞破碎機）、超音波細胞破碎装置、高速冷却遠心分離機、微量遠心分離機、超遠心分離機、遠心濃縮機、電気泳動装置、UV トランスイルミネーター、ゲル撮影装置、超音波破碎機、クロマトチャンバー、タンパク質精製装置、フラクシオンコレクター、分光光度計、蛍光分光光度計、マイクロプレートリーダー、PCR 装置、定量 PCR 装置、DNA シーケンサ、

遺伝子導入装置、実体顕微鏡、光学顕微鏡、蛍光顕微鏡、共焦点レーザ蛍光顕微鏡、高速液体クロマトグラフ装置（HPLC）、ガスー液体クロマトグラフ装置（GC）、液体クロマトグラフ質量分析計（LCMS）、ガスクロマトグラフ質量分析計（GCMS）、原子吸光分光光度計、化学発光検出装置、人工気象器、植物育成棚、生物環境調節装置、クロロフィル蛍光測定ユニット、デジタルタイムラプスカメラ、マイクローム、透過型電子顕微鏡、全自動元素分析装置、電気炉、圧搾器 など

<植物工場研究センター 実験施設・設備等>

コンテナ型人工気象器、データロガー、光量子センサ、CO₂ センサ、温湿度プローブ、CO₂ 制御装置、日長制御装置、空気調節器、水耕装置、ミスト噴霧装置、液面上下式育苗ベッド、閉鎖型苗生産システム など

【生命機能化学科 実験施設・設備等】

実験台、試薬棚、椅子、局所排気装置（ドラフト）、安全キャビネット、電子天秤、pH メータ、純水製造装置、超純水製造装置、製氷機、冷蔵庫、冷凍庫、ディープフリーザ、凍結乾燥機、オートクレーブ、乾熱滅菌器、噴霧乾燥機、電気炉、クリーンベンチ、ロータリーエバポレーター、インキュベーター（孵卵器）、振とう培養機、CO₂ インキュベーター、マルチビーズショッカー（多検体細胞破碎機）、超音波細胞破碎装置、高速冷却遠心分離機、

微量遠心分離機、超遠心分離機、遠心濃縮機、電気泳動装置、ゲル撮影装置、UV トランスイルミネーター、タンパク質精製装置、フラクションコレクター、限外ろか装置、分光光度計、

蛍光分光光度計、マイクロプレートリーダー、赤外分光光度計、比旋光計、PCR 装置、定量 PCR 装置、DNA シーケンサ、遺伝子導入装置、実体顕微鏡、光学顕微鏡、蛍光顕微鏡、共焦点レーザ蛍光顕微鏡、高速液体クロマトグラフ装置 (HPLC)、ガス-液体クロマトグラフ装置 (GC)、液体クロマトグラフ質量分析計 (LCMS)、ガスクロマトグラフ質量分析計 (GCMS)、核磁気共鳴装置、原子吸光分光光度計、等温滴定型熱量計、表面プラズモン共鳴装置、化学発光測定装置、粘度計、色差計、濁度計、水分計、溶存酸素計 など

【緑地環境科学科 実験施設・設備等】

実験台、収納棚、椅子、恒温器、卓上ボール板、卓上旋盤、万力、ドラフトチャンバー、グローブチャンバー、ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、分光光度計、蛍光光度計、元素分析計、高速冷却遠心機、乾燥炉、蒸散・光合成測定装置、風洞施設、実体顕微鏡、乾燥炉、水ポテンシャル測定装置、植物栽培用照明棚、万能圧縮試験装置、コンクリートミキサー、モルタルミキサー、セメント凝結試験機、モルタル曲げ強さ試験機、スランプ試験装置、骨材試験ふるい、重量級電子天秤、地盤模型振動台、自動突固め試験装置、CBR 貫入試験装置、圧密試験装置、三軸圧縮試験装置、締固めモールド、試料押し出し器、恒温乾燥炉、コンプレッサー、真空ポンプ、重量級電子天秤、長谷川式土壌貫入計、スウェーデン式サウンディング試験機、汎用電子天秤、自動計測三軸試験装置、積層体模型実験装置、イオンクロマトグラフ、蛍光分光光度計、吸光分光光度計、超純水製造装置、純水製造装置、恒温乾燥炉、有機炭素分析計、酸分解装置、遠心分離機、マッフル炉、無機分析装置、土壌物理性測定装置、光学顕微鏡、植物栽培装置、水耕栽培装置、波形観測装置、小型モニタリング装置、乗用管理機、泡散布機、穀粒数カウンター、閉鎖型環境計測制御装置、切断機、フライス盤、アーク溶接機、人工気象器、クールインキュベーター、遅延蛍光測定装置、フリーザー、サーマルサイ클ラー、遠心分離機、オートクレーブ、恒温インキュベーター、電気泳動・ゲル撮影装置、大型プロッター、大型イメージスキャナー など

<植物工場研究センター 実験施設・設備等>

栽培装置、環境計測装置、植物計測装置、フリーザー、凍結乾燥機 など

【農学部附属教育研究フィールド（農場）について】

施設・設備等：

教育研究フィールド（農場）を設置する。当該、教育研究フィールドの総面積は 61,000 m²で、9,000m²の水田、7,000m²の畑、8,000m²の果樹園、45 棟（9,000m²）のグリーンハウス（ガラス室・ビニールハウス）、4 器の屋外型人工気象室、昆虫飼育棟、ライスセンタ

ー及びフィールドサイエンス棟を有する。フィールドサイエンス棟は実験室、講義室、技師室、種子保存室・保存庫、生産物調整室、農産物販売所などを備えている。また、4台のトラクター、バケット付きトラクター、田植え機、多用途システム田植え機、コンバイン、米品質判定機を保有する。

フィールドサイエンス棟の部屋及び備考（使用用途）

室名	備考（使用用途）	面積（m ² ）
低温種子菌株貯蔵庫	実習用、研究用種子などの貯蔵	15.00
昆虫標本収蔵庫	実習用、研究用昆虫標本などの所蔵	75.00
技師室	技術職員居室兼事務室	30.00
支援技師室	技術職員居室兼事務室	30.00
生産物調整室	生産物の調整	90.00
男子更衣室	教職員及び実習学生の利用	30.00
女子更衣室	教職員及び実習学生の利用	57.02
機器・資材収蔵庫	用途は資材、肥料、農機具保管	166.46
農産物販売所	農産物の販売場所として利用	—
フィールド長室	フィールド長室及び会議室としての運用	30.00
教員室	教員の居室	18.00
教員室	教員の居室	18.00
教員室	教員の居室	24.00
実験室	専任教員研究グループ実験室として利用	30.00
定温種子貯蔵庫	研究用種子などの貯蔵	30.00
種子標本収蔵庫	研究用標本などの貯蔵	30.00
講義室	フィールド実習に関する講義。 AV 機器有り。	100.00
トイレ	多目的、男子用、女子用各 1	111.44

教育研究

応用生物科学科の実習科目としてフィールド実習 A 及び B を行う。これらの実習では食用、観賞用、飼料用、緑肥及び薬用など多様な資源となる植物や栽培品種の個体ならびに群落状態での特性を知り、それらを実際に生産する際の栽培技術、病害虫管理技術、圃場管理技術、品種育成方法、生育評価、収穫方法及び収量や品質の評価方法について理解させる教育を行う。実習科目に加えて応用生物科学科及び緑地環境科学科の教育研究にも利用する。研究用に栽培する主な作物はイネ、ソルガム、栽培ヒエ、ダイズ、ラッカセイ、トマト、ナス、タバコ、キュウリ、トウガラシなどである。管理運営に関しては農学部教員より選任さ

れた教育研究フィールド長のもと数名の技術職員が対応する。

8 入学者選抜の概要

農学部

ア アドミッションポリシー

今日、人類は国内外の様々な課題、すなわち、エネルギー、環境、食料、健康などに関する諸問題に直面している。農学は生物の機能と生命現象の解明や応用に加えて、自然環境、自然現象の理解、また、それらの調和と持続的な利用など多岐にわたる学問分野を内包しており、人類が抱えている諸問題解決への貢献が期待されている。そこで、農学部では広範な農学に関する専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、農学部では次のような学生を求めている。

1. 農学について学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 幅広い興味を持ち、自ら進んで学ぶ探求心を持っている人

以上に基づき、各学科が求める能力や適性を持つ学生を選抜する。

(1) 応用生物科学科

ア アドミッションポリシー

応用生物科学科は、生物の多様な潜在能力を明らかにし、その成果を人類の生活に役立てるための幅広い教育を行う。このような教育を通して、生物科学を活用できる専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、応用生物科学科では次のような学生を求めている。

1. 生物科学を持続可能な社会の構築へ役立てることに対する明確な目的意識を持ち、その学びのための基礎的知識を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 他の専門分野とも柔軟に連携しながら、健全な社会の発展に貢献したいと考えている人

以上に基づき、次の 1～5 の能力や適性を持つ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容発表のために必要な英語や国語の基礎学力と論理的な思考力を備えていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら積極的に考えて表現することができ、かつ多様な分野に興味と関心を持ち、課題の発見とその解決のために他者と協働して行動できること

イ 入学者選抜の方法と体制

一般選抜（前期日程）

一般選抜（前期日程）は、募集定員を 30 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト、調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科、個別学力検査の理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学、個別学力検査の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語、国語、個別学力検査の英語によって評価する。主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、調査書により評価する。

一般選抜（後期日程）

一般選抜（後期日程）は、募集定員を 10 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト及び調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科及び個別学力検査の小論文によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）と国語、及び個別学力検査の小論文によって評価する。小論文ではさらに、柔軟で論理的な思考力・判断力・表現力ならびに主体的な問題解決能力を評価する。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、募集定員を 10 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト及び調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）と国語によって評価する。思考力・判断力及び表現力を有していることを、志望理由書によって評価する。様々な課題について他者と協働的に取り組む

姿勢と、高い探求心及び勉学意欲を備えていることを、調査書及び活動報告書で評価する。

ウ 多様な学生の受入

帰国生徒特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、最終出身学校の成績証明書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも2科目について深く学んでいること、また国語の基礎学力を備えていることを、個別学力検査の小論文及び口述試験・面接によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、個別学力検査の数学によって評価する。また、英語の基礎学力を有していることを、TOEFL の成績で評価する。国際感覚、自己表現力、積極性、独自性、及び他者と協働的に取り組む姿勢を備えていることを、個別学力試験の口述試験・面接によって評価する。柔軟で論理的な思考力・判断力・表現力ならびに主体的な問題解決能力を有していることを、小論文によって評価する。

外国人留学生特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、日本留学試験と最終出身学校の成績証明書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも2科目について深く学んでいることを、日本留学試験の理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、日本留学試験の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力に加えて、柔軟な思考力・判断力・表現力を有していること、及び様々な課題について他者と協働的に取り組む姿勢を備えていることを、TOEFL の成績、日本留学試験の日本語、個別学力検査の小論文、口述試験・面接で評価する。

なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認することとする。

科目等履修生

正規の学生以外の者が、授業科目の履修を希望する場合、正規の学生の学修を妨げない場合に限り、「科目等履修生」として受け入れる。

(2) 生命機能化学科

ア アドミッションポリシー

生命機能化学科は、化学を基盤とした生命現象の解明と生物資源の利用に関する幅広い教育を行う。このような教育を通して、広範なバイオサイエンス・バイオテクノロジーに関する専門的な知識や技術を修得するとともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、生命機能化学科では次のような学生を求めている。

1. バイオサイエンス・バイオテクノロジーについて学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、そのための基礎的知識を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 他の専門分野とも柔軟に連携しながら、社会の持続的発展に貢献したいと考えている人

以上に基づき、次の 1～5 の能力や適性を持つ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容発表のために必要な英語や国語の基礎学力と論理的な思考力を備えていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら積極的に考えて表現することができ、かつ多様な分野に興味と関心を持ち、課題の発見とその解決のために他者と協働して行動できること

イ 入学者選抜の方法と体制

一般選抜（前期日程）

一般選抜（前期日程）は、募集定員を 30 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト、調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科、個別学力検査の理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学、個別学力検査の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語、国語、個別学力検査の英語によって評価する。主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を、調査書により評価する。

一般選抜（後期日程）

一般選抜（後期日程）は、募集定員を 10 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト及び調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科及び個別学力検査の小論文によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）と国語、及び個別学力検査の小論文によって評価する。小論文ではさらに、柔軟で論理的な思考力・判断力・表現力ならびに主体的な問題解決能力を評価する。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、募集定員を 10 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト及び調査書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、大学入学共通テストの数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）と国語によって評価する。思考力・判断力及び表現力を有していることを、志望理由書によって評価する。様々な課題について他者と協働的に取り組む姿勢と、高い探求心及び勉学意欲を備えていることを、調査書及び活動報告書で評価する。

ウ 多様な学生の受入

帰国生徒特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、最終出身学校の成績証明書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいること、また国語の基礎学力を備えていることを、個別学力検査の小論文及び口述試験・面接によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、個別学力検査の数学によって評価する。また、英語の基礎学力を有していることを、TOEFL の成績で評価する。表現力、積極性、及び様々な課題について他者と協働的に取り組む姿勢を備えていることを、個別学力試験の口述試験・面接によって評価する。柔軟で論理的な思考力・判断力・表現力ならびに主体的な問題解決能力を有していることを、小論文によって評価する。

外国人留学生特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、日本留学試験と最終出身学校の成績証明書によって評価する。物理、化学、生物のうち少なくとも 2 科目について深く学んでいることを、日本留学試験の理科によって評価する。数学の基礎学力を備えていることを、日本留学試験の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力に加えて、柔軟な思考力・判断力・表現力を有していること、及び様々な課題について他者と協働的に取り組む姿勢を備えていることを、TOEFL の成績、日本留学試験の日本語、個別学力検査の小論文、口述試験・面接で評価する。

なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認することとする。

科目等履修生

正規の学生以外の者が、授業科目の履修を希望する場合、正規の学生の学修を妨げない場合に限り、「科目等履修生」として受け入れる。

(3) 緑地環境科学科

ア アドミッションポリシー

緑地環境科学科は、生命の基盤となる農地や自然地、生活の基盤となる都市の緑地について、その保全・創成に関する幅広い教育を行う。このような教育を通して、緑地環境の保全と創成についての専門的知識や技術とともに、豊かな教養と問題解決能力、高い倫理観や創造力を身に付けた、産業・社会の持続的発展と学術の進歩に貢献できる専門職業人の育成をめざす。

したがって、緑地環境科学科では次のような学生を求めている。

1. 緑地環境の保全と創成について学ぶことに対する明確な目的意識を持ち、社会の持続的発展に貢献する意欲を持っている人
2. 社会における複雑な課題の発見とその解決のために、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する基礎的能力を持っている人
3. 幅広い興味をもち、自ら進んで学ぶ探求心を持っている人

以上にに基づき、次の1～5の能力や適性をもつ学生を選抜する。

1. 物理、化学、生物のいずれかについて深く学び、高い学力を有すること
2. データ解析などに必要な数学の基礎学力を身に付けていること
3. 学術雑誌の内容の理解、レポート作成、研究内容の発表のための英語や国語の基礎学力を身に付けていること
4. その他の教科・科目について幅広い知識を有すること
5. 自ら進んで学ぶための主体性を有し、自ら深くかつ論理的に思考して判断し、表現する能力と学内外の社会的な活動に参加しうる多様性・協働性を備えていること

イ 入学者選抜の方法と体制

一般選抜（前期日程）

一般選抜（前期日程）は、募集定員を30名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト、調査書によって評価する。物理、化学、生物のいずれかについて深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科、個別学力検査の理科によって評価する。数学の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの数学で評価し、論理的な思考力、判断力及び表現力を有していることを、個別学力検査の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語、国語、個別学力検査の英語によって評価する。学修のための主体性、社会活動のための多様性・協働性を、調査書によって評価する。

一般選抜（後期日程）

一般選抜（後期日程）は、募集定員を10名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、調査書によって評価する。物理、化

学、生物のいずれかについて深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科によって評価する。英語や国語、数学の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）、国語、数学によって評価する。学修のための主体性、社会活動のための多様性・協働性を、調査書によって評価する。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜は、募集定員を 10 名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、大学入学共通テスト及び調査書によって評価する。物理、化学、生物のいずれかについて深く学んでいることを、大学入学共通テストの理科によって評価する。数学の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの数学によって評価する。英語及び国語の基礎学力を有していることを、大学入学共通テストの外国語（英語）と国語によって評価する。論理的な思考力、判断力及び表現力を有していることを、個別学力検査の小論文によって評価する。学修のための主体性、社会活動のための多様性・協働性を有していることを、調査書、活動報告書、面接によって評価する。

ウ 多様な学生の受入

帰国生徒特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していること、物理、化学、生物のいずれかについて深く学んでいることを、最終出身学校の成績証明書によって評価する。数学の基礎学力を有していることを、個別学力検査の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力に加えて、論理的な思考力、判断力及び表現力を有していることを、TOEFL の成績、個別学力検査の小論文によって評価する。学修のための主体性、社会活動のための多様性・協働性を有していることを、面接によって評価する。

外国人留学生特別選抜

一般選抜及び学校推薦型選抜に加えて、募集定員は若干名とし、次のように実施する。

大学で学修するための基礎学力を有していることを、日本留学試験、最終出身学校の成績証明書によって評価する。物理、化学、生物のいずれかについて深く学んでいることを、日本留学試験の理科によって評価する。数学の基礎学力を有していることを、日本留学試験の数学によって評価する。英語や国語の基礎学力に加えて、論理的な思考力、判断力及び表現力を有していること、及び学修のための主体性、社会活動のための多様性・協働性を有していることを、TOEFL の成績、日本留学試験の日本語、個別学力検査の小論文、口述試験・面接によって評価する。

なお、経費支弁能力や在籍管理については、入学後留学生アドバイザー教員が定期的に確認することとする。

科目等履修生

正規の学生以外の者が、授業科目の履修を希望する場合、正規の学生の学修を妨げない場

合に限り、「科目等履修生」として受け入れる。

9 取得可能な資格

(1) 応用生物科学科

・中学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科・農業）

ア 国家資格

イ 資格取得可能（任用資格）

ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる

・食品衛生管理者

ア 国家資格

イ 資格取得可能（任用資格）

ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる

・食品衛生監視員

ア 国家資格

イ 資格取得可能（任用資格）

ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる

・甲種危険物取扱者

ア 国家資格

イ 資格取得可能（受験資格）

ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる

(2) 生命機能化学科

・中学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科・農業）

ア 国家資格

イ 資格取得可能

ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、指定の教職関連科目の単位を修得すれば取得できる

・食品衛生管理者

ア 国家資格

イ 資格取得可能（任用資格）

ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる

・食品衛生監視員

ア 国家資格

- イ 資格取得可能（任用資格）
- ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる
 - ・甲種危険物取扱者
- ア 国家資格
- イ 資格取得可能（受験資格）
- ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる
 - ・毒物劇物取扱責任者
- ア 国家資格
- イ 資格取得可能（任用資格）
- ウ 指定の科目の単位を修得すれば取得できる

(3) 緑地環境科学科

本学科の卒業生は、以下の資格を取得可能である。

取得可能な資格	国家資格か 民間資格の別	受験資格か、指定規則で定 める科目の単位を修得すれ ば取得できる資格の別	資格取得を卒業要件 としているか
中学校教諭一種免 許状（理科）	国家資格	卒業要件単位に含まれる科 目のほか、指定の教職関連 科目の単位を修得すれば取 得できる	していない
高等学校教諭一種 免許状（理科）	国家資格	卒業要件単位に含まれる科 目のほか、指定の教職関連 科目の単位を修得すれば取 得できる	していない
高等学校教諭一種 免許状（農業）	国家資格	卒業要件単位に含まれる科 目のほか、指定の教職関連 科目の単位を修得すれば取 得できる	していない
測量士補	国家資格	指定の科目の単位を修得す れば取得できる	していない
測量士	国家資格	指定の科目の単位を修得す れば取得できる（１年以上 の実務経験）	していない
１・２・３級造園技 能士	国家資格	受験資格（受験資格年数の 短縮）	していない

1・2級土木施工 管理技士	国家資格	受験資格（受験資格年数の 短縮）	していない
1・2級造園施工 管理技士	国家資格	受験資格（受験資格年数の 短縮）	していない
樹木医補	民間資格	指定の科目の単位を修得す れば取得できる	していない
自然再生士補	民間資格	指定の科目の単位を修得す れば取得できる	していない
登録ランドスケ プアーキテクト (RLA)補	民間資格	指定の科目の単位を修得す れば取得できる	していない
登録ランドスケ プアーキテクト (RLA)	民間資格	受験資格（受験資格年数の 短縮）	していない

10 実習の具体的計画

農学部 教育実習

ア 実習の目的

本学は1学域、11学部、15研究科からなる総合大学として、大阪市、大阪府をはじめとする関西圏を中心とした、教育現場の発展に寄与する高度な専門性を有する教員の養成を目的とする。

教職課程の集大成にあたる教育実習では、教育現場である学校に実際に身を置くという経験を通して、教師の使命や具体的な職務内容、教師として必要な資質・能力を改めて認識するとともに、各学域・学部での専門的な学びや教職課程での学びを土台に、学習指導や生徒指導などの教育活動に取り組むことを通して、教師としての指導力・実践力を高め、教職への適性を確かめることを目指す。

イ 実習先の確保の状況

教育実習の実習先として、大阪市教育局、大阪府教育委員会から実習受け入れの承諾を得ている小学校 292 校、中学校 132 校、高等学校 154 校を確保しており、実習先の確保としては十分な状況にある。

【資料 3-1 教育実習施設一覧】

【資料 3-2 大阪府教育委員会、大阪市教育局実習受入承諾書】

ウ 実習先との契約内容

大阪市教育委員会、大阪府教育委員会と実習時に順守すべき事項などについて事前に協議し、決定する。

エ 実習水準の確保の方策

教職課程の各授業科目の履修、教育実習の事前事後指導、学内で実施する教育実習関係の各種オリエンテーションなどを適切に実施することや実習担当の教職員が実習先と密に連絡を取り合うことなどを通じて実習水準を確保する。

オ 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学生の健康管理については、本学で全学生対象に年 1 回実施する定期健康診断を受診させ、学生の健康状況を全学的に把握する。また、学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険などの保険加入を義務付ける。さらに、感染予防対策として、事前指導時において予防接種などの確認を行う。また、実習前のオリエンテーションなどを通じて実習中に知り得た情報に関する守秘義務の厳守や SNS に実習中の事項を投稿などしないことについて指導する。

カ 実習先との連携体制

実習開始前に、本学の教員及び教職担当の事務担当者を通じて、実習先担当教職員と十分な打ち合わせを行う。また、実習中に随時連絡を取り合える体制を構築する。

キ 事前・事後における指導計画

教育実習においては、教育実習事前事後指導の授業内で事前指導、事後指導を行う。事前指導では、教育実践の責任の大きさや奥の深さを認識しつつ実習への総合的な準備をし、実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。事後指導では、教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

教育学を専門とする専任教員に加え、教職課程を設置するすべての各学域・学部、研究科の専任教員が巡回指導を行う。巡回の回数などは実習校と協議し決定する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

大阪市教育委員会、大阪府教育委員会及び実習校と適切な指導者の配置について、協議する体制を整える。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習における成績評価・単位認定については、実習校からの実習に関する評価を基に、大学の専任教員が総合的な観点から評価し、単位認定を行う。

11 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1）応用生物科学科

応用生物科学インターンシップ

ア 実習先の確保の状況

大学や企業のホームページなどを利用して、受講を希望する学生が自ら実習先を探し、応募などの事前手続きを含む必要手続きを行う。キャリアサポート室を積極的に活用する。学生アドバイザーや指導教員は、実習先の候補への受け入れを書面で推薦する。実習期間は概ね1週間～10日間程度で実質総時間数30時間程度以上とし、長期休暇を利用することを指導する。

イ 実習先との連携体制

学生は、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（インターン賠）」（以下、学生保険）へ加入し、実習先での事故などに備える。実習依頼書、実施計画書、実施後のレポートの評価と、期間中の報告書を双方で確認することを徹底することで連携を図る。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

実習依頼書（実習先への提出用、実習目的の設定）を学生本人が必要事項を記し、学生アドバイザーへ提出する。アドバイザーが必要事項を追記し、学生を通じてインターンシップ先へ送付する。受け入れ先決定後、実施計画書を作成し、学生アドバイザーまたは指導教員へ提出する。実習後はレポートを作成し、学生アドバイザーへインターンシップ修了書及びレポートを提出（必要に応じてインターンシップ先へもレポートを提出）。受け入れ先へのヒアリングの後、学生アドバイザーから学科全教員へ一連の経緯を報告し、協議後に単位を認定する。

エ その他特記事項

該当なし

（2）生命機能化学科

生命機能化学インターンシップ

ア 実習先の確保の状況

大学や企業、研究機関などのホームページなどを利用して、受講を希望する学生が自ら実習先を探し、応募などの事前手続きを含む必要手続きを行う。キャリアサポート室を積極的に活用する。学生アドバイザーや指導教員は、実習先の候補への受け入れを書面で推薦する。実習期間は概ね1週間～10日間程度で実質総時間数30時間程度以上とし、長期休暇を利用することを指導する。

イ 実習先との連携体制

学生は、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険（インターン賠）」（以下、学生保険）へ加入し、実習先での事故などに備える。実習依頼書、実施計画書、実施後のレポートの評価と、期間中の報告書を実習先と学生ならびに学生アドバイザーや指導教官双方で確認することを徹底することで連携を図る。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価及び単位認定は、学生の実習レポート、受け入れ先からの評価シートの内容、及び学生の取り組み姿勢に関するインターンシップ先へのヒアリングの結果に基づき、学生アドバイザーが行う。

エ その他特記事項

該当なし

（3）緑地環境科学科

緑地環境科学インターンシップ

ア 実習先の確保の状況

専任教員の共同研究や国などの行政機関に設置されている審議会などの行政委員の経験を通じて、国または地方公共団体の農学職、農業土木職、土木職（造園を含む）、林学職、環境職、国または地方公共団体、独立行政法人などの農学系、建設系、環境系の研究機関、民間企業及び団体の農業関連、建設関連、環境関連の部署などを学生に紹介する。また、学生は自ら本学のキャリアサポート室、各種企業団体のホームページなどに掲載された募集案内などを活用して、学生の興味や関心に応じて実習先を確保することもできる。

【資料4 実習施設一覧 緑地環境科学インターンシップ】

イ 実習先との連携体制

実習の受け入れ先機関は、専任教員の共同研究や行政委員などを通じた関連機関、卒業生の就職先あるいはその関連機関である場合が多く、十分な連携体制がとられることとする。

なお、学生には、「学生教育研究災害傷害保険（学研災）」及び「学研災付帯賠償責任保険

(インターン賠)」(以下、学生保険)に加入させ、実習先での事故などに備えさせる。

ウ 成績評価体制及び単位認定方法

実習の受け入れ先の決定後、学生に、実習先、実習期間、インターンシップの目的、内容及び実施計画の概要を記載した実施計画書を作成し、学生アドバイザーもしくは指導教員に提出させる。実習期間は、1週間から10日間程度、実質総時間数は30時間以上とし、長期休暇を利用することを指導する。実習後、学生に、インターンシップの実習内容、実習を通じて獲得したことなどを記載したレポートを作成させ、学生アドバイザーもしくは指導教員に提出させ、その内容について面談によって確認する。必要に応じて受け入れ先に対するヒアリングを実施して、学生に対する評価を確認し、単位を認定する。

エ その他特記事項

特になし

12 昼夜開講制を実施する場合の具体的計画

該当なし

13 編入学定員を設定する場合の具体的計画

該当なし

14 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

大阪公立大学(仮称)では、令和7年度に森之宮キャンパスを開設し、全学共通教育としての基幹教育を実施する。

農学部(応用生物科学科、生命機能化学科、緑地環境科学科)においては、1年次に基幹教育を実施し、収容定員は150名(入学定員×基幹教育実施年)である。また、2～4年次の基幹教育、専門教育を中百舌鳥キャンパスで実施し、収容定員は450名である(入学定員×専門教育実施年)。いずれのキャンパスでも収容定員に対して十分な教育が行える講義室などを確保する。

森之宮キャンパスにおいては、国際基幹教育機構所属の教員83名を配置し基幹教育を実施する。また、農学部の専任教員も森之宮キャンパスで1年次配当の専門科目を実施する。中百舌鳥キャンパスには完成年度3月31日時点において、65名の専任教員を配置し専門教育を実施する。

教員のキャンパス間の移動については、教育を実施するそれぞれのキャンパスでの担当

授業が同一日にならないよう時間割を調整する。また、森之宮キャンパスには、他キャンパスを拠点とする教員向けの執務スペースを設ける。

学生に対しては、森之宮キャンパス・中百舌鳥キャンパス共に図書館、自習スペースなどを整備し、学生の授業時間外学習を各キャンパスで適切に行えるようにする。さらに、保健管理施設、学生相談室、履修相談、健康管理、厚生補導の体制を各キャンパスで整備するほか、大学ポータルサイトを開設する。

森之宮キャンパスで開講される授業科目を履修する2年次以降の者、あるいは他キャンパスで開講される授業科目を自由科目として履修を希望する者に対しては、基本的に対面による授業を実施するため、学生が授業実施キャンパスに移動することを原則とする。しかし、履修希望者の人数や履修登録状況に応じて、教員が他キャンパスから中百舌鳥キャンパスに移動して授業を行うことや、メディアを利用した遠隔授業を実施するなど、学生の履修に配慮するものとする。

【資料5 農学部キャンパスの遷移】

(1) 応用生物科学科

時間割について、農学部応用生物科学科の1年次は、全ての授業科目（基幹教育及び専門科目）を森之宮キャンパスで開講する。森之宮キャンパスにおける時間割は、年間履修登録単位数の上限に配慮し編成することで、学生が無理なく授業科目を履修できるようにする。また、2年次以降は全ての授業科目を中百舌鳥キャンパスで履修することから、学生は無理なく授業科目を履修することが可能である。

(2) 生命機能化学科

時間割について、農学部生命機能化学科の1年次は、全ての授業科目（基幹教育及び専門科目）を森之宮キャンパスで開講する。森之宮キャンパスにおける時間割は、年間履修登録単位数の上限に配慮し編成することで、学生が無理なく授業科目を履修できるようにする。また、2年次以降は全ての授業科目を中百舌鳥キャンパスで履修することから、学生は無理なく授業科目を履修することが可能である。

(3) 緑地環境科学科

時間割について、農学部緑地環境科学科の1年次は、月曜日から木曜日、及び金曜日午前の授業科目を森之宮キャンパスで履修し、金曜日午後の授業科目を中百舌鳥キャンパスで履修する。

森之宮キャンパスにおける時間割は、年間履修登録単位数の上限に配慮し編成することで、学生が無理なく授業科目を履修できるようにする。金曜日午後の授業においては、午後の4時限（15時開始）に配置することで学生の移動時間を十分に確保することにより、無理なく授業科目を履修することが可能である。

また、2 年次以降は全ての授業科目を中百舌鳥キャンパスで履修することから、学生は無理なく授業科目を履修することが可能である。

15 社会人を対象とした大学教育の一部を校舎以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合の具体的計画

該当なし

16 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、平常時の面接による授業の実施を原則とするが、大学設置基準第 25 条第 2 項及び本学の学則の規定に基づき、多様なメディアを高度に利用し、同時に双方向に行うことができる遠隔授業を実施できることとすることから、カリキュラムの改善などにより、多様なメディアを利用した授業が必要となった場合は、文部科学省の告示の要件などに基づき、実施するものとする。

17 通信教育を実施する場合の具体的計画

該当なし

18 管理運営

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

19 自己点検・評価

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

20 情報の公表

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

21 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照
(部局における取組み)

農学部及び各学科において、教育内容などの改善を図るために以下の取組みを行う。完成年度までは、教育目的に則した教育が行われているかを確認しながら、目指す人材の養成に務める。完成年度以降には、教育目的やディプロマポリシーに対する達成状況を分析し、カリキュラムの改善(科目内容、配当年次など)を検討する。このため、開学後は教員の教育能力を改善するために、外部講師を招いた講義やセミナーを開催し、講義スキルや研究の最新動向を得る機会を設け、教員の参加を促す。さらに、講義科目において独自の授業アンケートを実施し、授業内容の改善につなげる。

22 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組について

(1) 応用生物科学科

1年次前期に「初年次ゼミナール」(初年次教育科目)を配置し、大学での学びをより有効に定着させるためのアカデミックスキルを学修することで、自身の専門分野だけでなく、将来にわたって自己研鑽を継続する基礎とする。

総合教養科目の中に、キャリアデザイン科目群(「現代社会におけるキャリアデザイン」「キャリアと実践」など12科目)を配置し、初年次のみならず、4年間を通じて受講可能としている。当該科目群は、思考法、学び方、社会との関わり、ビジネス計画に関わる科目が含まれ、学生が社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができる。

2・3年次では、「フィールド実習A、B」、「応用生物学基礎実験A、B、C」の5つの実習・実験科目(学科専門科目)を配置し、専門職業人として基礎的実験技術を身に付けさせる。

3年次に配置する実習科目「応用生物科学インターンシップ」(学科専門科目)で、企業、国あるいは地方公共団体の行政機関などにおいて職業体験を行う。就業体験を通じて、応用生物学に関連する業務の内容を理解するとともに、必要な能力を再認識させ、大学での学びを深めることで、将来設計の動機付けとする。さらに卒業後の進路を見据えた高度な専門科目(学科専門科目)として、実務経験豊富な外部講師による「バイオビジネス論」、「バイオインダストリー論」を4年次に配置し、専門職業人としての実践力を身に付けた人材を養成する。

4年次には必修科目として「応用生物科学卒業研究」を配置し、10研究室に5名前後を配属させ卒業研究を遂行する。卒業研究を遂行する上で実験技術及び実験結果の解析技術の修得に加えて、研究室内外の教員、大学院生、学部生などとのコミュニケーションを通じて、実験計画能力、論文作成能力及びプレゼンテーション能力あるいは研究倫理の向上を図

り、専門職業人としての社会における役割や情報発信の重要性などを意識させる。

別図参照【資料 6-1 シラバス「応用生物科学インターンシップ」】

(2) 生命機能化学科

1 年次前期に「初年次ゼミナール」(初年次教育科目)を配置し、大学での学びをより有効に定着させるためのアカデミックスキルを学修することで、自身の専門分野だけでなく、将来にわたって自己研鑽を継続する基礎とする。

総合教養科目の中に、キャリアデザイン科目群(「現代社会におけるキャリアデザイン」「キャリアと実践」など 12 科目)を配置し、初年次のみならず、4 年間を通じて受講可能としている。当該科目群は、思考法、学び方、社会との関わり、ビジネス計画に関わる科目が含まれ、学生が社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができる。

2・3 年次では、「生物有機化学実験」「生物物理化学実験」「有機合成化学実験」「バイオインフォマティクス基礎実習」「生化学実験」「発酵微生物学実験」「応用微生物学実験」「食品化学実験」「分子生物学実験」の 9 つの実験・実習科目(学科専門科目)を配置し、専門職業人として基礎的な実験技術を身に付けさせる。

3 年次に配置する実習科目「生命機能化学インターンシップ」(学科専門科目)で、実習先の企業・行政機関などの一員として正社員と同様の仕事を体験する。この就業体験を通じて、仕事の内容を理解するだけでなく、「社会人としての仕事に対する心構えやマナーを身に付ける」とともに、「大学において学ぶべきもの」を再認識させ、自身の将来設計について熟考させる。また、卒業後の進路を見据えた高度な専門科目(学科専門科目)として、実務経験豊富な外部講師による「バイオビジネス論」「バイオインダストリー論」を 4 年次に配置し、専門職業人としての実践力を身に付けた人材を養成する。

さらに、4 年次には必修科目として「生命機能化学卒業研究」を配置し、9 研究室に 6 名前後を配属させ卒業研究を遂行する。各自の卒業研究を遂行する上で必要な実験技術及び実験結果の解析技術を修得するだけでなく、研究室内外の教員や学部生・大学院生とのコミュニケーションを通じて、実験計画能力、論文作成能力及びプレゼンテーション能力の向上を図り、専門職業人としての社会における役割や情報発信の重要性などを意識させる。

別図参照【資料 6-2 シラバス「生命機能化学インターンシップ」】

(3) 緑地環境科学科

1 年次前期に「初年次ゼミナール」(初年次教育科目)を配置し、大学での学びをより有効に定着させるためのアカデミックスキルを学修することで、自身の専門分野だけでなく、将来にわたって自己研鑽を継続する基礎とする。

総合教養科目の中に、キャリアデザイン科目群(「現代社会におけるキャリアデザイン」「キャリアと実践」など 12 科目)を配置し、初年次のみならず、4 年間を通じて受講可能としている。当該科目群は、思考法、学び方、社会との関わり、ビジネス計画に関わる科目

が含まれ、学生が社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことができる。

4年間を通じて、「緑地環境科学実習演習入門 A、B」「緑地環境科学実習演習基礎 A、B」「緑地環境科学実習演習応用 A、B」「測量学実習」「里地里山管理学実習」の8つの実験・実習科目（学科専門科目）を配置し、専門職業人として基礎的実験技術を身に付けさせる。

3年次に配置する演習科目「緑地環境科学インターンシップ」（学科専門科目）で、国または地方公共団体、研究機関、民間企業及び団体の農学系、建設系、環境系の部署などの実習先において、職業を体験する。この職業体験を通じて、緑地環境科学に関わる専門職業人としての仕事の内容を理解するだけでなく、大学での学習と実務を結び付け、将来の自己の職業適性について考え、高い職業意識の育成を図る。

専任教員は、実務経験を有する者や企業との共同研究、国などの行政機関に設置されている審議会などの行政委員の経験を有する者などが配置される。こうした専任教員は、学科専門科目の講義や実験・実習において、健全な緑地環境の保全と創成に関わる先進的な事例や社会で議論されている課題などを教材として活用し、専門職業人としての実践力を身に付けた人材を養成する。

4年次には必修科目として「緑地環境科学卒業研究」を配置し、9研究室に6名前後を配属させ卒業研究を遂行する。研究室において、指導教員のもとで各自が卒業研究のテーマを決定し、各自が主体的にテーマに基づいて調査、データ収集、結果の分析・解析、考察を実践し、結論を導き、卒業研究を完成させることで、専門職業人としてプロジェクトを自主的、計画的に推進する能力を養成する。研究室での研究活動は、研究室内外の教員や学部生・大学院生とのコミュニケーションを図ることができ、学生のプレゼンテーション能力とともにコミュニケーション能力の向上を図り、専門職業人として必要とされる基礎力を身に付けさせる。

別図参照【資料 6-3 シラバス「緑地環境科学インターンシップ」】

イ 教育課程外の取組について

大阪公立大学・大阪公立大学大学院設置の趣旨等を記載した書類参照

ウ 適切な体制の整備について

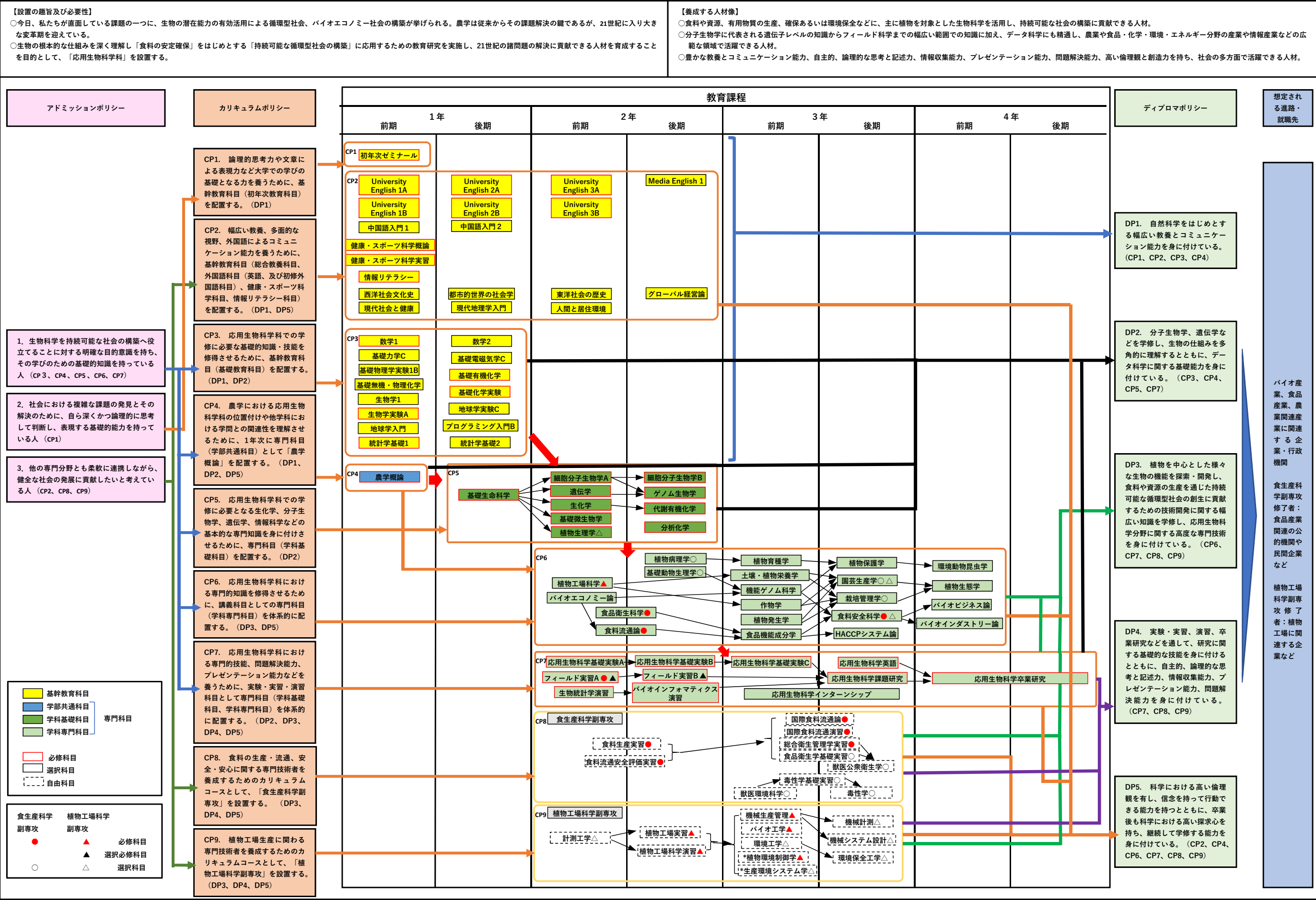
学生のキャリア形成補助のために、複数の就職担当教員をそれぞれの学科に配置する。また、全学的な組織として設置されるキャリアサポート室と協力し、学生の職業的自立を支援する。

大阪公立大学 農学部

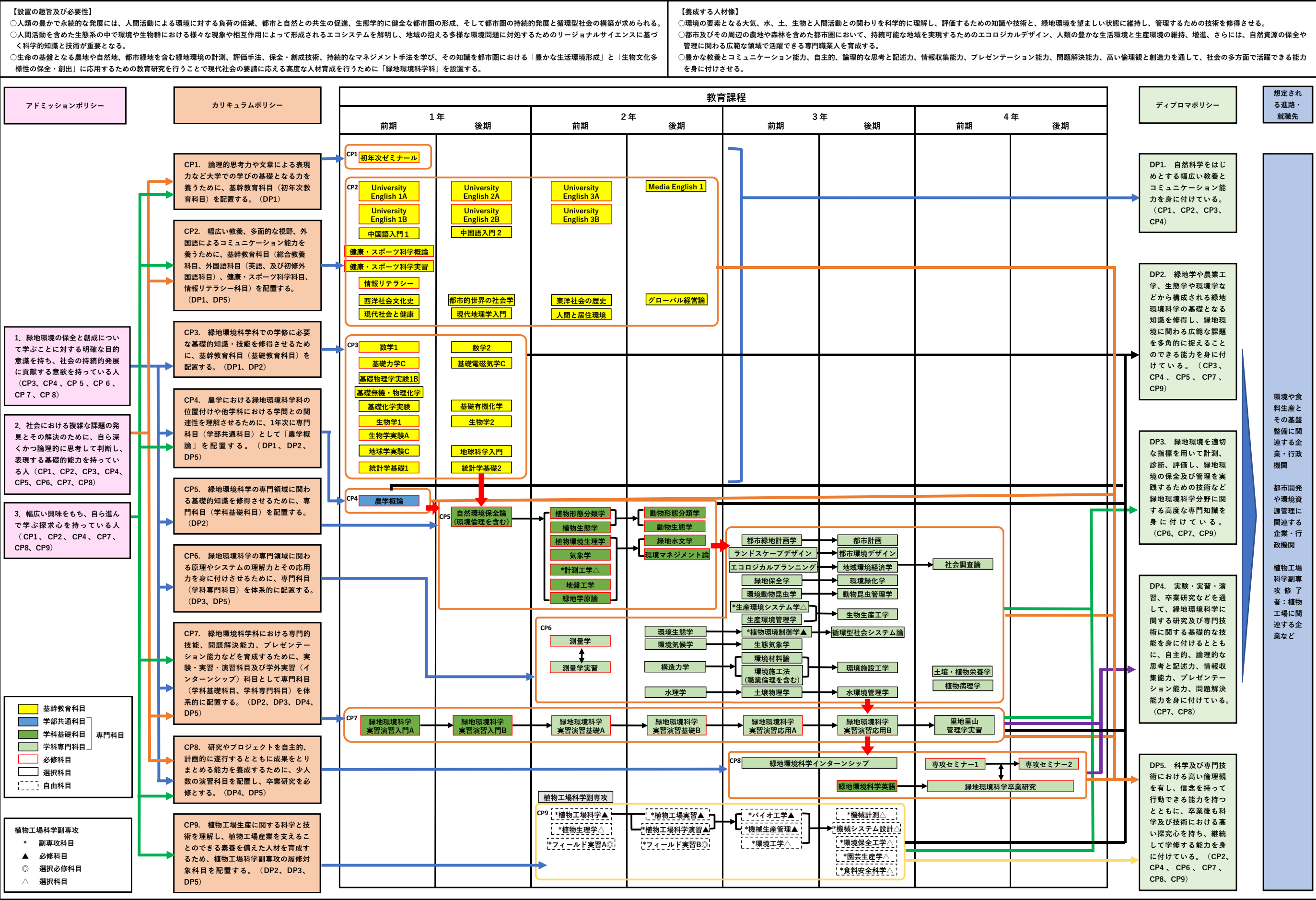
設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 1-1	農学部応用生物科学科	カリキュラムマップ	P. 2
資料 1-2	農学部生命機能化学科	カリキュラムマップ	P. 3
資料 1-3	農学部緑地環境科学科	カリキュラムマップ	P. 4
資料 2-1	農学部応用生物科学科	履修モデル	P. 5
資料 2-2	農学部生命機能化学科	履修モデル	P. 9
資料 2-3	農学部緑地環境科学科	履修モデル	P. 12
資料 3-1	教育実習施設一覧		P. 15
資料 3-2	大阪府教育委員会、大阪市教育局 実習受入承諾書		P. 28
資料 4	実習施設一覧 緑地環境科学インターンシッ プ		P. 45
資料 5	農学部キャンパスの遷移		P. 47
資料 6-1	シラバス「応用生物科学インターンシップ」		P. 48
資料 6-2	シラバス「生命機能化学インターンシップ」		P. 50
資料 6-3	シラバス「緑地環境科学インターンシップ」		P. 52

農学部 応用生物科学科 カリキュラムマップ



農学部 緑地環境科学科 カリキュラムマップ



※モデルはあくまでも一例ですので、履修要項と毎年度の時間割を確認して履修計画を立てること。

一般、食品衛生コース *他3モデルでも食品衛生管理者
および食品衛生監視員の資格を取得できる

履修モデル（応用生物科学科）

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目 (基礎教育科目を除く)	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
	現代社会におけるキャリアデザイン	2	University English 3B	1					
	数理・データサイエンス基礎	2							
	哲学入門	2							
	日本国憲法	2							
	科学技術と社会	2							
	歴史のなかの大阪	2							
	社会に活かす科学	2							
	University English 1A	1							
	University English 1B	1							
	University English 2A	1							
	University English 2B	1							
	Media English	1							
	ドイツ語入門1	1							
	ドイツ語入門2	1							
	健康・スポーツ科学概論	2							
	健康・スポーツ科学実習	1							
	情報リテラシー	2							
	18科目	28	2科目	2	0科目	0	0科目	0	30
基礎教育科目	統計学基礎1	2							
	統計学基礎2	2							
	基礎無機・物理化学	2							
	基礎有機化学	2							
	基礎化学実験	2							
	生物学実験A	2							
	生物学1	2							
	プログラミング入門B	2							
	8科目	16	0科目	0	0科目	0	0科目	0	16
専門科目	農学概論	2	細胞分子生物学A	2	植物育種学	2	応用生物科学卒業研究	8	
	基礎生命科学	2	細胞分子生物学B	2	機能ゲノム科学	2	バイオビジネス論	1	
			生化学	2	土壌・植物栄養学	2	バイオインダストリー論	1	
			植物生理学	2	作物学	2			
			基礎微生物学	2	植物保護学	2			
			遺伝学	2	食品機能成分学	2			
			ゲノム生物学	2	食料安全科学	2			
			代謝有機化学	2	HACCPシステム論	2			
			分析化学	2	園芸生産学	2			
			植物病理学	2	応用生物科学概論	2			
			バイオエコノミー論	2	応用生物科学英語	1			
			基礎動物生理学	2	応用生物科学基礎実験C	4			
			生物統計学演習	2	応用生物科学課題研究	4			
			バイオインフォマティクス演習	2					
			フィールド実習A	2					
			フィールド実習B	2					
			応用生物科学基礎実験A	3					
			応用生物科学基礎実験B	3					
			食品衛生科学	2					
			食料流通論	1					
	2科目	4	20科目	41	13科目	29	3科目	10	84
自由科目									
	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0
計	28科目	48	22科目	43	13科目	29	3科目	10	130

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

一般, 公務員農学コース

履修モデル (応用生物科学科)

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目（基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
	キャリアと実践	2	University English 3B	1					
	数理・データサイエンス基礎	2							
	倫理学入門	2							
	心理学入門	2							
	数学への招待	2							
	関西文学論	2							
	人体を考える	2							
	University English 1A	1							
	University English 1B	1							
	University English 2A	1							
	University English 2B	1							
	Writing A	1							
	フランス語入門1	1							
	フランス語入門2	1							
	健康・スポーツ科学概論	2							
	健康・スポーツ科学実習	1							
	情報リテラシー	2							
	18科目	28	2科目	2	0科目	0	0科目	0	30
基礎教育科目	統計学基礎1	2							
	統計学基礎2	2							
	基礎無機・物理化学	2							
	基礎有機化学	2							
	基礎化学実験	2							
	生物学実験A	2							
	基礎物理学実験1B	2							
	プログラミング入門B	2							
	8科目	16	0科目	0	0科目	0	0科目	0	16
専門科目	農学概論	2	細胞分子生物学A	2	植物育種学	2	応用生物科学卒業研究	8	
	基礎生命科学	2	細胞分子生物学B	2	土壌・植物栄養学	2	環境動物昆虫学	2	
			生化学	2	作物学	2	植物生態学	2	
			植物生理学	2	植物発生学	2			
			基礎微生物学	2	植物保護学	2			
			遺伝学	2	食品機能成分学	2			
			ゲノム生物学	2	食料安全科学	2			
			代謝有機化学	2	園芸生産学	2			
			分析化学	2	栽培管理学	2			
			植物病理学	2	応用生物科学概論	2			
			バイオエコノミー論	2	応用生物科学英語	1			
			基礎動物生理学	2	応用生物科学基礎実験C	4			
			生物統計学演習	2	応用生物科学課題研究	4			
			バイオインフォマティクス演習	2					
			フィールド実習A	2					
			フィールド実習B	2					
			応用生物科学基礎実験A	3					
			応用生物科学基礎実験B	3					
			食料流通論	1					
	2科目	4	19科目	39	13科目	29	3科目	12	84
自由科目									
	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0科目	0	0
計	26科目	48	21科目	41	13科目	29	3科目	12	130

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

履修モデル（応用生物科学科）

食生産科学副専攻

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目（基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
	国際活動とキャリア	2	University English 3B	1					
	数理・データサイエンス基礎	2							
	日本史の見方	2							
	現代社会学入門	2							
	物理学への招待	2							
	地域文化学	2							
	行動の生理科学	2							
	University English 1A	1							
	University English 1B	1							
	University English 2A	1							
	University English 2B	1							
	TOEFL A	1							
	中国語入門1	1							
	中国語入門2	1							
	健康・スポーツ科学概論	2							
	健康・スポーツ科学実習	1							
	情報リテラシー	2							
	18科目	28	2科目	2	0科目	0	0科目	0	30
基礎教育科目	統計学基礎1	2							
	統計学基礎2	2							
	基礎無機・物理化学	2							
	基礎有機化学	2							
	基礎化学実験	2							
	生物学実験A	2							
	地球学入門	2							
	基礎電磁気学C	2							
	8科目	16	0科目	0	0科目	0	0科目	0	16
専門科目	農学概論	2	細胞分子生物学A	2	植物育種学	2	応用生物科学卒業研究	8	
	基礎生命科学	2	細胞分子生物学B	2	機能ゲノム科学	2	環境動物昆虫学	2	
			生化学	2	土壌・植物栄養学	2			
			植物生理学	2	作物学	2			
			基礎微生物学	2	植物発生学	2			
			遺伝学	2	植物保護学	2			
			ゲノム生物学	2	食品機能成分学	2			
			代謝有機化学	2	食料安全科学▲	2			
			分析化学	2	園芸生産学	2			
			植物病理学	2	栽培管理学	2			
			バイオエコノミー論	2	応用生物科学概論	2			
			基礎動物生理学	2	応用生物科学英語	1			
			生物統計学演習	2	応用生物科学基礎実験C	4			
			バイオインフォマティクス演習	2	応用生物科学課題研究	4			
			フィールド実習A	2					
			フィールド実習B	2					
			応用生物科学基礎実験A	3					
			応用生物科学基礎実験B	3					
			食品衛生科学▲	2					
			食料流通論▲	1					
	2科目	4	20科目	41	14科目	31	2科目	10	86
自由科目			食料生産実習*▲	1	毒性学*	2			
			食料流通安全評価実習*▲	1	毒性学基礎実習*	1			
					国際食料流通論*▲	1			
					国際食料流通演習*▲	2			
					総合衛生管理学実習*	1			
	0科目	0	2科目	2	5科目	7	0科目	0	9
計	26科目	48	24科目	45	19科目	38	2科目	10	141

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

要卒単位130。科目名欄が斜体の科目の単位は要卒単位に含まれない。

* 副専攻履修者のみ開講科目

▲は食生産科学副専攻の必修科目を示す。

履修モデル（応用生物科学科）

植物工場科学副専攻

区分	1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目（基礎教育科目を除く）	初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
	大学でどう学ぶか	2	University English 3B	1					
	数理・データサイエンス基礎	2							
	東洋史の見方	2							
	現代経済学入門	2							
	化学への招待	2							
	大阪の自然	2							
	国際開発の課題	2							
	University English 1A	1							
	University English 1B	1							
	University English 2A	1							
	University English 2B	1							
	Discussion	1							
	ロシア語入門1	1							
	ロシア語入門2	1							
	健康・スポーツ科学概論	2							
	健康・スポーツ科学実習	1							
	情報リテラシー	2							
	18科目	28	2科目	2	0科目	0	0科目	0	30
基礎教育科目	統計学基礎1	2							
	基礎力学C	2							
	基礎無機・物理化学	2							
	基礎有機化学	2							
	基礎化学実験	2							
	生物学実験A	2							
	数学1	2							
	数学2	2							
	8科目	16	0科目	0	0科目	0	0科目	0	16
専門科目	農学概論	2	細胞分子生物学A	2	植物育種学	2	応用生物科学卒業研究	8	
	基礎生命科学	2	細胞分子生物学B	2	機能ゲノム科学	2			
			生化学	2	土壌・植物栄養学	2			
			植物生理学	2	作物学	2			
			基礎微生物学	2	植物発生学	2			
			遺伝学	2	植物保護学	2			
			ゲノム生物学	2	食品機能成分学	2			
			代謝有機化学	2	食料安全科学	2			
			分析化学	2	HACCPシステム論	2			
			植物病理学	2	園芸生産学	2			
			バイオエコノミー論	2	栽培管理学	2			
			生物統計学演習	2	応用生物科学概論	2			
			バイオインフォマティクス演習	2	応用生物科学英語	1			
			フィールド実習A △	2	応用生物科学基礎実験C	4			
			フィールド実習B △	2	応用生物科学課題研究	4			
			応用生物科学基礎実験A	3					
			応用生物科学基礎実験B	3					
			食料流通論	1					
			植物工場科学 ▲	2					
	2科目	4	19科目	39	15科目	31	1科目	8	82
自由科目			植物工場実習* ▲	1	植物環境制御学* ▲	2			
			植物工場科学演習* ▲	1	環境工学*	2			
					機械計測*	2			
					バイオ工学*	2			
					機械生産管理*	2			
	0科目	0	2科目	2	5科目	10	0科目	0	12
計	28科目	48	23科目	43	20科目	41	1科目	8	140

(注) 科目名欄の下線は必修科目を示す。

要卒単位130。科目名欄が斜体の科目の単位は要卒単位に含まれない。

* 副専攻履修者のみ開講科目

▲は植物工場科学副専攻の必修科目を示す。

履修モデル（生命機能化学科）

食品産業・医薬品工業・健康産業などで活躍する専門職
業人
（食品衛生管理者・監視員任用資格取得）

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基 幹 教 育 科 目	総 合 教 養 科 目	倫理学入門	2	科学技術と社会	2	Writing B	1			
		暮らしと政治	2	国際開発の課題	2					
		世界の文学	2	国際活動とキャリア	2					
		創薬科学のすすめ	2							
	初年次教育科目	初年次ゼミナール	2							
	情報リテラシー科目	情報リテラシー	2							
	外 国 語 科 目	University English 1A	1	University English 3A	1					
		University English 1B	1	University English 3B	1					
		University English 2A	1							
		University English 2B	1							
		ドイツ語入門1	1							
		ドイツ語入門2	1							
	健康・スポーツ	健康・スポーツ科学概論	2							
	科学科目	健康・スポーツ科学実習	1							
	基 礎 教 育 科 目	数学1	2							
		基礎力学C	2							
基礎物理学実験1B		2								
基礎無機・物理化学		2								
基礎有機化学		2								
基礎化学実験		2								
生物学1		2								
生物学実験A		2								
22科目		37	5科目	8	1科目	1	0科目	0	46	
専 門 科 目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学 科 基 礎 科 目	生化学1	2	生化学2	2					
				微生物学1	2					
				微生物学2	2					
				生物物理化学1	2					
				有機化学1	2					
				有機化学2	2					
				生物統計学演習	2					
				酵素化学	2					
				細胞生物学	2					
		分子生物学	2							
学 科 専 門 科 目			生物有機化学実験	2	食品化学	2	生命機能化学科学英語A	1		
			生物物理化学実験	2	構造生物学	2	生命機能化学科学英語B	1		
			有機合成化学実験	2	生命機能化学概論	2	バイオビジネス論	1		
			バイオインフォマティクス基礎実習	2	発酵微生物学実験	4	バイオインダストリー論	1		
			生化学実験	2	応用微生物学実験	4	生命機能化学卒業研究	8		
					食品化学実験	2				
					分子生物学実験	2				
					有機構造解析学	2				
					生物資源利用学	2				
					分子遺伝学	2				
					糖質科学	2				
					栄養生化学	2				
					発酵生理学	2				
					応用酵素学	2				
					食品製造学	2				
					生物環境化学	2				
					食品衛生学	2				
自由科目										
	2科目		4	15科目	30	17科目	38	5科目	12	84
	合計	24科目	41	20科目	38	18科目	39	5科目	12	130

履修モデル（生命機能化学科）

化学工業・資源エネルギー産業・環境産業などで活躍する専門職業人

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目	総合教養科目	倫理学入門	2	科学技術と社会	2	Writing B	1			
		暮らしと政治	2	国際開発の課題	2					
		世界の文学	2	国際活動とキャリア	2					
		心と脳	2							
	初年次教育科目	初年次ゼミナール	2							
	情報リテラシー科目	情報リテラシー	2							
	外国語科目	University English 1A	1	University English 3A	1					
		University English 1B	1	University English 3B	1					
		University English 2A	1							
		University English 2B	1							
		ドイツ語入門1	1							
	ドイツ語入門2	1								
	健康・スポーツ科学科目	健康・スポーツ科学概論	2							
健康・スポーツ科学実習		1								
基礎教育科目	数学1	2								
	基礎力学C	2								
	基礎物理学実験1B	2								
	基礎無機・物理化学	2								
	基礎有機化学	2								
	基礎化学実験	2								
	生物学1	2								
	生物学実験A	2								
		22科目	37	5科目	8	1科目	1	0科目	0	46
専門科目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学科 基礎科目	生化学1	2	生化学2	2					
				微生物学1	2					
				生物物理化学1	2					
				生物物理化学2	2					
				有機化学1	2					
				有機化学2	2					
				生物無機化学	2					
				酵素化学	2					
				細胞生物学	2					
		分子生物学	2							
学科 専門科目			生物有機化学実験	2	食品化学	2	生命機能化学科学英語A	1		
			生物物理化学実験	2	構造生物学	2	生命機能化学科学英語B	1		
			有機合成化学実験	2	生命機能化学概論	2	バイオビジネス論	1		
			バイオインフォマティクス基礎実習	2	発酵微生物学実験	4	バイオインダストリー論	1		
			生化学実験	2	応用微生物学実験	4	生命機能化学卒業研究	8		
					食品化学実験	2				
					分子生物学実験	2				
					有機構造解析学	2				
					生体分子合成法	2				
					分子遺伝学	2				
					糖質科学	2				
					応用微生物学	2				
					天然物化学	2				
					応用酵素学	2				
					生物制御化学	2				
					生物環境化学	2				
					生物代謝制御学	2				
自由科目										
	2科目	4	15科目	30	17科目	38	5科目	12	84	
	合計	24科目	41	20科目	38	18科目	39	5科目	12	130

履修モデル（生命機能化学科）

食品安全科学プログラム履修者
（食品衛生管理者・監視員任用資格取得）

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目	総合教養科目	倫理学入門	2	科学技術と社会	2	Writing B	1			
		暮らしと政治	2	国際開発の課題	2					
		世界の文学	2	国際活動とキャリア	2					
		創薬科学のすすめ	2							
	初年次教育科目	初年次ゼミナール	2							
	情報リテラシー科目	情報リテラシー	2							
	外国語科目	University English 1A	1	University English 3A	1					
		University English 1B	1	University English 3B	1					
		University English 2A	1							
		University English 2B	1							
		ドイツ語入門1	1							
		ドイツ語入門2	1							
	健康・スポーツ科学科目	健康・スポーツ科学概論	2							
		健康・スポーツ科学実習	1							
	基礎教育科目	数学1	2							
		基礎力学C	2							
		基礎物理学実験1B	2							
		基礎無機・物理化学	2							
		基礎有機化学	2							
		基礎化学実験	2							
		生物学1	2							
		生物学実験A	2							
		22科目	37	5科目	8	1科目	1	0科目	0	46
専門科目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学科 基礎科目	生化学1	2	生化学2	2					
				微生物学1	2					
				微生物学2	2					
				生物物理化学1	2					
				有機化学1	2					
				有機化学2	2					
				生物統計学演習	2					
				酵素化学	2					
				細胞生物学	2					
				分子生物学	2					
	学科 専門科目			生物有機化学実験	2	食品化学	2	生命機能化学科学英語A	1	
				生物物理化学実験	2	構造生物学	2	生命機能化学科学英語B	1	
				有機合成化学実験	2	生命機能化学概論	2	バイオビジネス論	1	
				バイオインフォマティクス基礎実習	2	発酵微生物学実験	4	バイオインダストリー論	1	
				生化学実験	2	応用微生物学実験	4	生命機能化学卒業研究	8	
						食品化学実験	2			
						分子生物学実験	2			
						有機構造解析学	2			
						生物資源利用学	2			
						分子遺伝学	2			
						糖質科学	2			
						栄養生化学	2			
						発酵生理学	2			
						応用酵素学	2			
						食品製造学	2			
						生物環境化学	2			
						食品衛生学▲	2			
	自由科目					食品衛生学実習▲	1			
						食料安全科学	2			
						毒性学	2			
		2科目	4	15科目	30	20科目	43	5科目	12	89
合計		24科目	41	20科目	38	21科目	44	5科目	12	135

自由科目は要卒単位に含まれない。▲は食品安全科学プログラムの必修科目を示す。

履修モデル（緑地環境科学科）

環境や食料生産とその基盤整備に関連する企業・行政機関

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基 幹 教 育 科 目		初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
		情報リテラシー	2	University English 3B	1					
		University English 1A	1	Media English	1					
		University English 1B	1	東洋社会の歴史	2					
		University English 2A	1	人間と居住環境	2					
		University English 2B	1	グローバル経営論	2					
		中国語入門1	1							
		中国語入門2	1							
		健康・スポーツ科学概論	2							
		健康・スポーツ科学実習	1							
		西洋社会文化史	2							
		現代社会と健康	2							
		都市的世界の社会学	2							
		現代地理学入門	2							
		数学1	2							
		基礎力学C	2							
		生物学1	2							
		統計学基礎1	2							
		統計学基礎2	2							
		地球学入門	2							
		生物学実験A	2							
		21科目	35	6科目	9	0科目	0	0科目	0	44
専 門 科 目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学 科 基 礎 科 目	自然環境保全論(環境倫理を含む)	2	植物形態分類学	2	緑地環境科学英語	2			
		緑地環境科学実習演習入門A	2	植物生態学	2					
		緑地環境科学実習演習入門B	2	植物環境生理学	2					
				気象学	2					
				計測工学	2					
				地盤工学	2					
				緑地学原論	2					
				動物形態分類学	2					
				動物生態学	2					
				緑地水文学	2					
				環境マネジメント論	2					
	学 科 専 門 科 目			測量学	2	緑地環境科学実習演習応用A	2	専攻セミナー1	2	
				測量学実習	2	緑地環境科学実習演習応用B	2	専攻セミナー2	2	
				緑地環境科学実習演習基礎A	2	植物環境制御学	2	緑地環境科学卒業研究	8	
				緑地環境科学実習演習基礎B	2	循環型社会システム論	2	里地里山管理学実習	2	
				環境気候学	2	生産環境システム学	2	土壌・植物栄養学	2	
				環境生態学	2	生物生産工学	2			
				水理学	2	生産環境管理学	2			
						環境施設工学	2			
						水環境管理学	2			
						動物昆虫管理学	2			
						地域環境経済学	2			
						緑地環境科学インターンシップ	2			
	自 由 科 目									
4科目		8	18科目	36	13科目	26	5科目	16	86	
合計		25科目	43	24科目	45	13科目	26	5科目	16	130

履修モデル（緑地環境科学科）

都市開発や環境資源管理に関連する企業・行政機関

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基幹教育科目		初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
		情報リテラシー	2	University English 3B	1					
		University English 1A	1	Media English	1					
		University English 1B	1	東洋社会の歴史	2					
		University English 2A	1	人間と居住環境	2					
		University English 2B	1	グローバル経営論	2					
		中国語入門1	1							
		中国語入門2	1							
		健康・スポーツ科学概論	2							
		健康・スポーツ科学実習	1							
		西洋社会文化史	2							
		現代社会と健康	2							
		都市的世界の社会学	2							
		現代地理学入門	2							
		数学1	2							
		基礎力学C	2							
		生物学1	2							
		統計学基礎1	2							
		統計学基礎2	2							
		地球学入門	2							
		生物学実験A	2							
	21科目	35	6科目	9	0科目	0	0科目	0	44	
専門科目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学科 基礎科目	自然環境保全論(環境倫理を含む)	2	植物形態分類学	2	緑地環境科学英語	2			
		緑地環境科学実習演習入門A	2	植物生態学	2					
		緑地環境科学実習演習入門B	2	植物環境生理学	2					
			気象学	2						
			計測工学	2						
			地盤工学	2						
			緑地学原論	2						
			動物形態分類学	2						
			動物生態学	2						
			緑地水文学	2						
			環境マネジメント論	2						
	学科 専門科目		測量学	2	緑地環境科学実習演習応用A	2	専攻セミナー1	2		
			測量学実習	2	緑地環境科学実習演習応用B	2	専攻セミナー2	2		
			緑地環境科学実習演習基礎A	2	環境材料論	2	緑地環境科学卒業研究	8		
			緑地環境科学実習演習基礎B	2	環境施工法(職業倫理を含む)	2	里地里山管理学実習	2		
			環境気候学	2	土壌物理学	2	社会調査論	2		
			構造力学	2	環境緑化学	2				
			水理学	2	環境動物昆虫学	2				
				ランドスケープデザイン	2					
				都市緑地計画学	2					
				都市計画	2					
			エコロジカルプランニング	2						
		緑地環境科学インターンシップ	2							
自由 科目										
	4科目	8	18科目	36	13科目	26	5科目	16	86	
合計		25科目	43	24科目	45	13科目	26	5科目	16	130

履修モデル（緑地環境科学科）：植物工場科学副専攻

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		単位 合計
		科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	科 目 名	単位	
基 幹 教 育 科 目		初年次ゼミナール	2	University English 3A	1					
		情報リテラシー	2	University English 3B	1					
		University English 1A	1	Media English	1					
		University English 1B	1	東洋社会の歴史	2					
		University English 2A	1	人間と居住環境	2					
		University English 2B	1	グローバル経営論	2					
		中国語入門1	1							
		中国語入門2	1							
		健康・スポーツ科学概論	2							
		健康・スポーツ科学実習	1							
		西洋社会文化史	2							
		現代社会と健康	2							
		都市的世界の社会学	2							
		現代地理学入門	2							
		数学1	2							
		基礎力学C	2							
		生物学1	2							
		統計学基礎1	2							
		統計学基礎2	2							
		地球学入門	2							
		生物学実験Δ	2							
		21科目	35	6科目	9	0科目	0	0科目	0	44
専 門 教 育 科 目	学部 共通科目	農学概論	2							
	学科 基礎 科目	自然環境保全論(環境倫理を含む)	2	植物形態分類学	2	緑地環境科学英語	2			
		緑地環境科学実習演習入門A	2	植物生態学	2					
		緑地環境科学実習演習入門B	2	植物環境生理学	2					
			気象学	2						
			計測工学Δ	2						
			地盤工学	2						
			緑地学原論	2						
			動物形態分類学	2						
			動物生態学	2						
			緑地水文学	2						
			環境マネジメント論	2						
	学科 専門 科目		測量学	2	緑地環境科学実習演習応用A	2	専攻セミナー1	2		
			測量学実習	2	緑地環境科学実習演習応用B	2	専攻セミナー2	2		
			緑地環境科学実習演習基礎A	2	植物環境制御学▲	2	緑地環境科学卒業研究	8		
			緑地環境科学実習演習基礎B	2	循環型社会システム論	2	里地里山管理学実習	2		
			環境生態学	2	生産環境システム学Δ	2	土壌・植物栄養学	2		
			構造力学	2	生産環境管理学	2				
			水理学	2	環境施設工学	2				
				環境施工法(職業倫理を含む)	2					
				水環境管理学	2					
				動物昆虫管理学	2					
				地域環境経済学	2					
				緑地環境科学インターンシップ	2					
	自由 科目		植物工場科学*▲	2	環境工学*Δ	2				
			フィールド実習A*▲	2	機械システム設計*Δ	2				
			植物工場実習*▲	1	バイオ工学*▲	2				
			植物工場科学演習*▲	1	機械生産管理*▲	2				
		4科目	6	22科目	42	17科目	34	5科目	16	98
合計		25科目	41	28科目	51	17科目	34	5科目	16	142

*植物工場科学副専攻履修者のみ受講可科目

▲:植物工場科学副専攻必修科目、△:同副専攻選択科目

・科目名が斜体の科目の単位は要卒単位に含まれない

大阪府立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立富田林中学校	富田林市谷川町4-30	2名

大阪府立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪府立芥川高等学校	高槻市浦堂1-12-1	2名
2	大阪府立旭高等学校	大阪市旭区高殿5-6-41	2名
3	大阪府立芦間高等学校	守口市外島町1-43	2名
4	大阪府立阿武野高等学校	高槻市氷室町3-38-1	2名
5	大阪府立阿倍野高等学校	大阪市阿倍野区阪南町1-30-34	2名
6	大阪府立生野高等学校	松原市新堂1-552	2名
7	大阪府立池田高等学校	池田市旭丘2-2-1	2名
8	大阪府立大正白稜高等学校	大阪市大正区泉尾3-19-50	2名
9	大阪府立和泉高等学校	岸和田市土生町1-2-1	2名
10	大阪府立泉大津高等学校	泉大津市北豊中町1-1-1	2名
11	大阪府立和泉総合高等学校	和泉市富秋町1-14-4	2名
12	大阪府立泉島取高等学校	阪南市緑ヶ丘1-1-10	2名
13	大阪府立市岡高等学校	大阪市港区市岡元町2-12-12	2名
14	大阪府立茨木高等学校	茨木市新庄町12-1	2名
15	大阪府立茨木工科高等学校	茨木市春日5-6-41	2名
16	大阪府立茨木西高等学校	茨木市紫明園10-68	2名
17	大阪府立今宮高等学校	大阪市浪速区戎本町2-7-39	2名
18	大阪府立今宮工科高等学校	大阪市西成区出城1-1-6	2名
19	大阪府立園芸高等学校	池田市八王寺2-5-1	2名
20	大阪府立大冠高等学校	高槻市大塚町4-50-1	2名
21	大阪府教育センター附属高等学校	大阪市住吉区荻田4-1-72	2名
22	大阪府立大塚高等学校	松原市西大塚2-1005	2名
23	大阪府立大手前高等学校	大阪市中央区大手前2-1-11	2名
24	大阪府立鳳高等学校	堺市西区原田150	2名
25	大阪府立貝塚高等学校	貝塚市畠中1-1-1	2名
26	大阪府立貝塚南高等学校	貝塚市橋本620	2名
27	大阪府立懐風館高等学校	羽曳野市大黒776	2名
28	大阪府立春日丘高等学校	茨木市春日2-1-2	2名
29	大阪府立交野高等学校	交野市寺南野10-1	2名
30	大阪府立門真なみはや高等学校	門真市島頭4-9-1	2名
31	大阪府立門真西高等学校	門真市柳田町29-1	2名
32	大阪府立金岡高等学校	堺市北区金岡町2651	2名
33	大阪府立河南高等学校	富田林市錦ヶ丘町1-15	2名
34	大阪府立かわち野高等学校	東大阪市新庄4-11-95	2名
35	大阪府立岸和田高等学校	岸和田市岸城町10-1	2名
36	大阪府立北かわち畠が丘高等学校	寝屋川市寝屋北町1-1	2名
37	大阪府立北千里高等学校	吹田市藤白台5-6-1	2名
38	大阪府立北野高等学校	大阪市淀川区新北野2-5-13	2名
39	大阪府立淀川清流高等学校	大阪市東淀川区豊里2-11-35	2名
40	大阪府立柴島高等学校	大阪市東淀川区柴島1-7-106	2名
41	大阪府立久米田高等学校	岸和田市額原町1100	2名
42	大阪府立高津高等学校	大阪市天王寺区餌差町10-47	2名
43	大阪府立港南造形高等学校	大阪市住之江区南港東2-5-72	2名
44	大阪府立香里丘高等学校	枚方市東中振2-18-1	2名
45	大阪府立金剛高等学校	富田林市藤沢台2-1-1	2名
46	大阪府立堺上高等学校	堺市西区上61	2名
47	大阪府立堺工科高等学校	堺市堺区大仙中町12-1	2名
48	大阪府立堺西高等学校	堺市南区桃山台4-16	2名
49	大阪府立堺東高等学校	堺市南区晴美台1-1-2	2名
50	大阪府立桜塚高等学校	豊中市中桜塚4-1-1	2名
51	大阪府立佐野高等学校	泉佐野市市場東2-398	2名
52	大阪府立佐野工科高等学校	泉佐野市高松東1-3-50	2名
53	大阪府立狭山高等学校	大阪狭山市半田4-1510	2名
54	大阪府立四條畷高等学校	四條畷市雁屋北町1-1	2名
55	大阪府立信太高等学校	和泉市葛の葉町3-6-8	2名
56	大阪府立洪谷高等学校	池田市畑4-1-1	2名
57	大阪府立島本高等学校	三島郡島本町桜井台15-1	2名
58	大阪府立清水谷高等学校	大阪市天王寺区清水谷町2-44	2名
59	大阪府立城東工科高等学校	東大阪市西鴻池町2-5-33	2名
60	大阪府立吹田高等学校	吹田市原町4-24-14	2名
61	大阪府立吹田東高等学校	吹田市青葉丘南16-1	2名
62	大阪府立住吉高等学校	大阪市阿倍野区北畠2-4-1	2名

63	大阪府立成城高等学校	大阪市城東区諏訪3-11-41	2名
64	大阪府立成美高等学校	堺市南区城山台4-1-1	2名
65	大阪府立摂津高等学校	摂津市学園町1-5-1	2名
66	大阪府立泉北高等学校	堺市南区若松台3-2-2	2名
67	大阪府立泉陽高等学校	堺市堺区車之町3-2-1	2名
68	大阪府立千里高等学校	吹田市高野台2-17-1	2名
69	大阪府立千里青雲高等学校	豊中市新千里南町1-5-1	2名
70	大阪府立高石高等学校	高石市千代田6-12-1	2名
71	大阪府立高槻北高等学校	高槻市別所本町36-3	2名
72	大阪府立槻の木高等学校	高槻市城内町2-13	2名
73	大阪府立豊島高等学校	豊中市北緑丘3-2-1	2名
74	大阪府立天王寺高等学校	大阪市阿倍野区三好町2-4-23	2名
75	大阪府立刀根山高等学校	豊中市刀根山6-9-1	2名
76	大阪府立登美丘高等学校	堺市東区西野51	2名
77	大阪府立豊中高等学校	豊中市上野西2-5-12	2名
78	大阪府立富田林高等学校	富田林市谷川町4-30	2名
79	大阪府立長尾高等学校	枚方市長尾家具町5-1-1	2名
80	大阪府立長野高等学校	河内長野市原町2-1-1	2名
81	大阪府立長吉高等学校	大阪市平野区長吉長原西3-11-33	2名
82	大阪府立西成高等学校	大阪市西成区津守1-13-10	2名
83	大阪府立西寝屋川高等学校	寝屋川市葛原2-19-1	2名
84	大阪府立西野田工科高等学校	大阪市福島区大開2-17-62	2名
85	大阪府立寝屋川高等学校	寝屋川市本町15-64	2名
86	大阪府立農芸高等学校	堺市美原区北余部595-1	2名
87	大阪府立野崎高等学校	大東市寺川1-2-1	2名
88	大阪府立豊中高等学校能勢分校	豊能郡能勢町上田尻580	2名
89	大阪府立伯太高等学校	和泉市伯太町2-4-11	2名
90	大阪府立花園高等学校	東大阪市花園東町3-1-25	2名
91	大阪府立阪南高等学校	大阪市住吉区庭井2-18-81	2名
92	大阪府立東住吉高等学校	大阪市平野区平野西2-3-77	2名
93	大阪府立東住吉総合高等学校	大阪市平野区喜連西2-11-66	2名
94	大阪府立東百舌鳥高等学校	堺市中区土塔町2377-5	2名
95	大阪府立東淀川高等学校	大阪市淀川区宮原4-4-5	2名
96	大阪府立日根野高等学校	泉佐野市日根野2372-1	2名
97	大阪府立枚岡樟風高等学校	東大阪市鷹殿町18-1	2名
98	大阪府立枚方高等学校	枚方市大垣内町3-16-1	2名
99	大阪府立枚方津田高等学校	枚方市津田北町2-50-1	2名
100	大阪府立枚方なぎさ高等学校	枚方市磯島元町20-1	2名
101	大阪府立平野高等学校	大阪市平野区長吉川辺4-2-11	2名
102	大阪府立福井高等学校	茨木市西福井3-33-11	2名
103	大阪府立福泉高等学校	堺市西区太平寺323	2名
104	大阪府立藤井寺高等学校	藤井寺市津堂3-516	2名
105	大阪府立藤井寺工科高等学校	藤井寺市御舟町10-1	2名
106	大阪府立布施高等学校	東大阪市下小阪3-14-21	2名
107	大阪府立布施北高等学校	東大阪市荒本西1-2-72	2名
108	大阪府立布施工科高等学校	東大阪市宝持3-7-5	2名
109	大阪府立北摂つばさ高等学校	茨木市玉島台2-15	2名
110	大阪府立牧野高等学校	枚方市南船橋1-11-1	2名
111	大阪府立茨田高等学校	大阪市鶴見区安田1-5-49	2名
112	大阪府立松原高等学校	松原市三宅東3-4-1	2名
113	大阪府立三国丘高等学校	堺市堺区南三国ヶ丘町2-2-36	2名
114	大阪府立岬高等学校	泉南郡岬町淡輪3246	2名
115	大阪府立三島高等学校	高槻市今城町27-1	2名
116	大阪府立みどり清朋高等学校	東大阪市池島町6-3-9	2名
117	大阪府立港高等学校	大阪市港区波除2-3-1	2名
118	大阪府立箕面高等学校	箕面市牧落4-8-66	2名
119	大阪府立箕面東高等学校	箕面市粟生外院5-4-63	2名
120	大阪府立美原高等学校	堺市美原区平尾234-1	2名
121	大阪府立守口東高等学校	守口市八雲中町2-1-32	2名
122	大阪府立八尾高等学校	八尾市高町1-74	2名
123	大阪府立八尾北高等学校	八尾市萱振町7-42	2名
124	大阪府立八尾翠翔高等学校	八尾市神宮寺3-107	2名
125	大阪府立山田高等学校	吹田市山田東3-28-1	2名
126	大阪府立山本高等学校	八尾市山本町北1-1-44	2名

127	大阪府立夕陽丘高等学校	大阪市天王寺区北山町10-10	2名
128	大阪府立淀川工科高等学校	大阪市旭区太子橋3-1-32	2名
129	大阪府立緑風冠高等学校	大東市深野4-12-1	2名
130	大阪府立りんくう翔南高等学校	泉南市樽井2-35-54	2名
131	大阪府立勝山高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
132	大阪府立わかば高等学校	大阪市生野区巽東3-10-75	2名
133	大阪府立桃谷高等学校	大阪市生野区勝山南3-1-4	2名
134	大阪府立柏原東高等学校	柏原市高井田1015	2名
135	大阪府立長野北高等学校	河内長野市木戸東町3-1	2名

大阪市立小学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	滝川小学校	大阪市北区天満1-24-15	1名
2	堀川小学校	大阪市北区東天満2-10-7	1名
3	西天満小学校	大阪市北区西天満3-12-21	1名
4	菅北小学校	大阪市北区菅栄町9-5	1名
5	豊崎東小学校	大阪市北区長柄中2-3-30	1名
6	豊崎本庄小学校	大阪市北区本庄西2-1-16	1名
7	中津小学校	大阪市北区中津3-34-18	1名
8	大淀小学校	大阪市北区大淀中4-10-33	1名
9	豊仁小学校	大阪市北区長柄西2-6-20	1名
10	豊崎小学校	大阪市北区豊崎4-5-9	1名
11	扇町小学校	大阪市北区扇町2-7-24	1名
12	弘済小学校	吹田市古江台6-2-2	1名
13	弘済小学校分校	高槻市奈佐原956	1名
14	桜宮小学校	大阪市都島区東野田町1-10-19	1名
15	中野小学校	大阪市都島区中野町3-10-5	1名
16	高倉小学校	大阪市都島区高倉町3-3-10	1名
17	淀川小学校	大阪市都島区毛馬町3-5-39	1名
18	都島小学校	大阪市都島区都島本通3-10-3	1名
19	内代小学校	大阪市都島区内代町3-4-6	1名
20	東都島小学校	大阪市都島区都島本通4-24-20	1名
21	大東小学校	大阪市都島区毛馬町2-11-111	1名
22	友渕小学校	大阪市都島区友渕町1-3-123	1名
23	友渕小学校分校	大阪市都島区友渕町1-3-187	1名
24	福島小学校	大阪市福島区福島4-5-6	1名
25	玉川小学校	大阪市福島区玉川2-13-16	1名
26	野田小学校	大阪市福島区野田5-13-22	1名
27	吉野小学校	大阪市福島区吉野3-10-5	1名
28	大開小学校	大阪市福島区大開2-10-28	1名
29	鷺洲小学校	大阪市福島区鷺洲5-6-8	1名
30	海老江東小学校	大阪市福島区海老江1-6-19	1名
31	海老江西小学校	大阪市福島区海老江8-1-10	1名
32	上福島小学校	大阪市福島区福島7-4-33	1名
33	西九条小学校	大阪市此花区西九条4-3-41	1名
34	四貫島小学校	大阪市此花区四貫島2-16-29	1名
35	島屋小学校	大阪市此花区島屋2-9-36	1名
36	伝法小学校	大阪市此花区伝法3-13-10	1名
37	梅香小学校	大阪市此花区梅香3-17-29	1名
38	高見小学校	大阪市此花区高見1-3-35	1名
39	西島小学校	大阪市此花区西島2-5-12	1名
40	春日出小学校	大阪市此花区春日出中1-13-23	1名
41	玉造小学校	大阪市中央区玉造2-3-43	1名
42	南大江小学校	大阪市中央区農人橋1-3-3	1名
43	中大江小学校	大阪市中央区糸屋町2-3-14	1名
44	高津小学校	大阪市中央区高津3-4-21	1名
45	南小学校	大阪市中央区東心斎橋1-14-29	1名
46	開平小学校	大阪市中央区今橋1-5-7	1名
47	中央小学校	大阪市中央区瓦屋町2-8-4	1名
48	西船場小学校	大阪市西区江戸堀1-21-28	1名
49	日吉小学校	大阪市西区南堀江4-9-19	1名
50	九条南小学校	大阪市西区九条南2-13-17	1名
51	九条東小学校	大阪市西区九条2-6-2	1名
52	九条北小学校	大阪市西区九条南4-7-38	1名
53	本田小学校	大阪市西区川口1-5-19	1名
54	堀江小学校	大阪市西区北堀江3-2-16	1名
55	明治小学校	大阪市西区阿波座2-3-35	1名
56	明治小学校(分校)	大阪市西区立売堀4-10-18	1名
57	市岡小学校	大阪市港区市岡3-2-24	1名
58	磯路小学校	大阪市港区磯路3-7-7	1名
59	三先小学校	大阪市港区三先2-6-32	1名

60	田中小学校	大阪市港区田中2-10-34	1名
61	八幡屋小学校	大阪市港区八幡屋3-3-5	1名
62	波除小学校	大阪市港区波除3-6-8	1名
63	築港小学校	大阪市港区築港1-10-38	1名
64	南市岡小学校	大阪市港区南市岡2-6-35	1名
65	港晴小学校	大阪市港区港晴1-3-12	1名
66	弁天小学校	大阪市港区弁天2-9-35	1名
67	池島小学校	大阪市港区池島2-5-47	1名
68	三軒家西小学校	大阪市大正区三軒家西1-20-26	1名
69	泉尾東小学校	大阪市大正区千島1-16-16	1名
70	中泉尾小学校	大阪市大正区泉尾3-23-34	1名
71	北恩加島小学校	大阪市大正区泉尾5-17-31	1名
72	南恩加島小学校	大阪市大正区南恩加島3-6-11	1名
73	鶴町小学校	大阪市大正区鶴町2-6-24	1名
74	泉尾北小学校	大阪市大正区泉尾2-21-24	1名
75	平尾小学校	大阪市大正区平尾2-21-28	1名
76	三軒家東小学校	大阪市大正区三軒家東2-12-59	1名
77	小林小学校	大阪市大正区小林東2-4-45	1名
78	真田山小学校	大阪市天王寺区玉造本町14-41	1名
79	味原小学校	大阪市天王寺区味原町8-19	1名
80	桃陽小学校	大阪市天王寺区堂ヶ芝1-2-23	1名
81	五条小学校	大阪市天王寺区小宮町9-28	1名
82	聖和小学校	大阪市天王寺区寺田町1-6-37	1名
83	大江小学校	大阪市天王寺区四天王寺1-9-18	1名
84	生魂小学校	大阪市天王寺区上汐4-1-25	1名
85	天王寺小学校	大阪市天王寺区大道1-4-49	1名
86	栄小学校	大阪市浪速区浪速東1-1-61	1名
87	難波元町小学校	大阪市浪速区元町1-5-30	1名
88	大国小学校	大阪市浪速区大国1-9-3	1名
89	浪速小学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	1名
90	敷津小学校	大阪市浪速区敷津東3-9-32	1名
91	塩草立葉小学校	大阪市浪速区塩草1-4-31	1名
92	柏里小学校	大阪市西淀川区柏里2-13-33	1名
93	野里小学校	大阪市西淀川区野里2-21-13	1名
94	姫里小学校	大阪市西淀川区姫里2-8-24	1名
95	姫島小学校	大阪市西淀川区姫島1-10-4	1名
96	福小学校	大阪市西淀川区福町2-5-23	1名
97	大和田小学校	大阪市西淀川区大和田4-3-24	1名
98	川北小学校	大阪市西淀川区中島1-11-20	1名
99	佃小学校	大阪市西淀川区佃1-21-12	1名
100	香簍小学校	大阪市西淀川区御幣島6-5-25	1名
101	歌島小学校	大阪市西淀川区歌島2-5-18	1名
102	出来島小学校	大阪市西淀川区出来島2-2-24	1名
103	佃西小学校	大阪市西淀川区佃2-15-30	1名
104	御幣島小学校	大阪市西淀川区御幣島3-5-5	1名
105	神津小学校	大阪市淀川区十三元今里2-3-12	1名
106	田川小学校	大阪市淀川区田川2-9-37	1名
107	加島小学校	大阪市淀川区加島1-60-28	1名
108	三津屋小学校	大阪市淀川区三津屋中1-4-14	1名
109	新高小学校	大阪市淀川区新高1-15-53	1名
110	野中小学校	大阪市淀川区野中北1-11-26	1名
111	十三小学校	大阪市淀川区十三東4-3-6	1名
112	木川小学校	大阪市淀川区木川東3-7-32	1名
113	三国小学校	大阪市淀川区三国本町3-9-18	1名
114	北中島小学校	大阪市淀川区宮原5-3-4	1名
115	西中島小学校	大阪市淀川区西中島7-14-25	1名
116	塚本小学校	大阪市淀川区塚本3-5-6	1名
117	木川南小学校	大阪市淀川区木川東1-2-36	1名
118	東三国小学校	大阪市淀川区東三国6-3-24	1名
119	西三国小学校	大阪市淀川区西三国1-21-28	1名
120	新東三国小学校	大阪市淀川区東三国3-9-10	1名

121	宮原小学校	大阪市淀川区三国本町1-16-44	1名
122	東淡路小学校	大阪市東淀川区東淡路3-3-32	1名
123	西淡路小学校	大阪市東淀川区西淡路5-5-32	1名
124	菅原小学校	大阪市東淀川区菅原6-3-25	1名
125	新庄小学校	大阪市東淀川区上新庄2-20-5	1名
126	大隅東小学校	大阪市東淀川区瑞光5-8-19	1名
127	豊里小学校	大阪市東淀川区豊里5-14-60	1名
128	啓発小学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	1名
129	小松小学校	大阪市東淀川区小松3-18-15	1名
130	下新庄小学校	大阪市東淀川区下新庄5-2-9	1名
131	井高野小学校	大阪市東淀川区井高野1-28-17	1名
132	大桐小学校	大阪市東淀川区大桐4-1-15	1名
133	豊新小学校	大阪市東淀川区豊新4-17-26	1名
134	東井高野小学校	大阪市東淀川区井高野2-8-28	1名
135	大隅西小学校	大阪市東淀川区大隅2-3-18	1名
136	豊里南小学校	大阪市東淀川区豊里5-12-41	1名
137	大道南小学校	大阪市東淀川区大道南1-23-6	1名
138	東小橋小学校	大阪市東成区東小橋3-10-37	1名
139	大成小学校	大阪市東成区大今里西3-2-62	1名
140	中道小学校	大阪市東成区玉津1-7-39	1名
141	北中道小学校	大阪市東成区中道2-9-20	1名
142	中本小学校	大阪市東成区中本4-2-32	1名
143	東中本小学校	大阪市東成区東中本2-9-3	1名
144	今里小学校	大阪市東成区大今里1-35-29	1名
145	片江小学校	大阪市東成区大今里南2-13-2	1名
146	神路小学校	大阪市東成区大今里4-6-19	1名
147	深江小学校	大阪市東成区深江南1-4-6	1名
148	宝栄小学校	大阪市東成区神路1-15-48	1名
149	北鶴橋小学校	大阪市生野区鶴橋3-4-50	1名
150	御幸森小学校	大阪市生野区桃谷5-5-37	1名
151	鶴橋小学校	大阪市生野区桃谷2-20-32	1名
152	東桃谷小学校	大阪市生野区勝山北3-7-21	1名
153	勝山小学校	大阪市生野区勝山南1-3-5	1名
154	林寺小学校	大阪市生野区林寺2-14-3	1名
155	生野小学校	大阪市生野区舍利寺3-1-39	1名
156	中川小学校	大阪市生野区中川3-4-3	1名
157	東中川小学校	大阪市生野区新今里7-14-37	1名
158	小路小学校	大阪市生野区小路2-24-40	1名
159	東小路小学校	大阪市生野区小路東3-8-15	1名
160	田島小学校	大阪市生野区田島3-7-38	1名
161	舍利寺小学校	大阪市生野区勝山南4-15-25	1名
162	生野南小学校	大阪市生野区林寺6-6-7	1名
163	巽小学校	大阪市生野区巽中3-12-5	1名
164	北巽小学校	大阪市生野区巽北1-30-29	1名
165	西生野小学校	大阪市生野区生野西3-5-7	1名
166	巽南小学校	大阪市生野区巽南2-10-7	1名
167	巽東小学校	大阪市生野区巽東3-8-13	1名
168	清水小学校	大阪市旭区清水5-1-12	1名
169	古市小学校	大阪市旭区森小路2-10-35	1名
170	大宮小学校	大阪市旭区大宮4-9-16	1名
171	高殿小学校	大阪市旭区高殿6-9-10	1名
172	大宮西小学校	大阪市旭区中宮1-8-14	1名
173	生江小学校	大阪市旭区生江1-10-21	1名
174	城北小学校	大阪市旭区赤川3-13-47	1名
175	新森小路小学校	大阪市旭区新森6-3-13	1名
176	太子橋小学校	大阪市旭区太子橋1-12-15	1名
177	高殿南小学校	大阪市旭区高殿3-10-30	1名
178	榎並小学校	大阪市城東区野江4-1-28	1名
179	関目小学校	大阪市城東区関目6-5-5	1名
180	鯉江小学校	大阪市城東区今福西3-9-27	1名
181	今福小学校	大阪市城東区今福南2-1-53	1名

182	聖賢小学校	大阪市城東区新喜多2-4-35	1名
183	嶋野小学校	大阪市城東区嶋野西4-11-48	1名
184	中浜小学校	大阪市城東区中浜2-12-35	1名
185	城東小学校	大阪市城東区嶋野東3-16-41	1名
186	諏訪小学校	大阪市城東区永田2-15-5	1名
187	成育小学校	大阪市城東区成育1-5-19	1名
188	すみれ小学校	大阪市城東区古市2-6-38	1名
189	東中浜小学校	大阪市城東区東中浜5-4-5	1名
190	放出小学校	大阪市城東区放出西2-2-18	1名
191	関目東小学校	大阪市城東区関目4-12-15	1名
192	森之宮小学校	大阪市城東区森之宮1-6-64	1名
193	鯉江東小学校	大阪市城東区今福東1-3-26	1名
194	榎本小学校	大阪市鶴見区今津北1-5-35	1名
195	茨田南小学校	大阪市鶴見区諸口1-3-71	1名
196	茨田北小学校	大阪市鶴見区浜3-8-66	1名
197	鶴見小学校	大阪市鶴見区鶴見4-14-10	1名
198	今津小学校	大阪市鶴見区今津中4-1-48	1名
199	茨田東小学校	大阪市鶴見区茨田大宮3-7-61	1名
200	茨田西小学校	大阪市鶴見区横堤5-13-61	1名
201	横堤小学校	大阪市鶴見区横堤1-11-83	1名
202	みどり小学校	大阪市鶴見区緑2-4-45	1名
203	鶴見南小学校	大阪市鶴見区鶴見2-17-22	1名
204	茨田小学校	大阪市鶴見区安田2-1-8	1名
205	焼野小学校	大阪市鶴見区焼野1-3-44	1名
206	高松小学校	大阪市阿倍野区天王寺町北3-17-19	1名
207	常盤小学校	大阪市阿倍野区松崎町3-11-12	1名
208	常盤小学校分校	大阪市阿倍野区松崎町3-2-9	1名
209	金塚小学校	大阪市阿倍野区旭町3-4-46	1名
210	丸山小学校	大阪市阿倍野区丸山通1-4-43	1名
211	晴明丘小学校	大阪市阿倍野区晴明通10-34	1名
212	阿倍野小学校	大阪市阿倍野区阪南町2-17-21	1名
213	阪南小学校	大阪市阿倍野区阪南町5-7-40	1名
214	長池小学校	大阪市阿倍野区長池町20-26	1名
215	苗代小学校	大阪市阿倍野区阪南町1-26-30	1名
216	晴明丘南小学校	大阪市阿倍野区帝塚山1-23-8	1名
217	粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜2-6-6	1名
218	安立小学校	大阪市住之江区住之江1-4-29	1名
219	敷津浦小学校	大阪市住之江区北島2-9-22	1名
220	加賀屋小学校	大阪市住之江区北加賀屋2-5-26	1名
221	住吉川小学校	大阪市住之江区西加賀屋4-1-4	1名
222	北粉浜小学校	大阪市住之江区粉浜1-5-48	1名
223	住之江小学校	大阪市住之江区御崎4-6-43	1名
224	平林小学校	大阪市住之江区平林南2-6-48	1名
225	加賀屋東小学校	大阪市住之江区東加賀屋1-6-25	1名
226	新北島小学校	大阪市住之江区新北島6-2-56	1名
227	南港光小学校	大阪市住之江区南港中4-4-22	1名
228	南港桜小学校	大阪市住之江区南港中5-2-48	1名
229	南港みなみ小学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	1名
230	清江小学校	大阪市住之江区御崎5-7-18	1名
231	東粉浜小学校	大阪市住吉区東粉浜2-3-26	1名
232	住吉小学校	大阪市住吉区帝塚山西4-1-35	1名
233	長居小学校	大阪市住吉区長居東3-3-40	1名
234	依羅小学校	大阪市住吉区我孫子4-11-48	1名
235	墨江小学校	大阪市住吉区墨江2-3-46	1名
236	遠里小野小学校	大阪市住吉区遠里小野6-6-27	1名
237	清水丘小学校	大阪市住吉区清水丘2-9-41	1名
238	南住吉小学校	大阪市住吉区南住吉3-5-1	1名
239	大領小学校	大阪市住吉区大領3-3-5	1名
240	苅田小学校	大阪市住吉区苅田3-5-34	1名
241	山之内小学校	大阪市住吉区山之内2-17-39	1名
242	苅田南小学校	大阪市住吉区苅田10-1-35	1名

243	苅田北小学校	大阪市住吉区苅田1-11-39	1名
244	大空小学校	大阪市住吉区我孫子西1-6-12	1名
245	桑津小学校	大阪市東住吉区桑津5-13-13	1名
246	北田辺小学校	大阪市東住吉区北田辺3-11-14	1名
247	田辺小学校	大阪市東住吉区田辺2-3-34	1名
248	東田辺小学校	大阪市東住吉区東田辺2-14-6	1名
249	南田辺小学校	大阪市東住吉区南田辺4-3-4	1名
250	南百済小学校	大阪市東住吉区湯里1-15-40	1名
251	育和小学校	大阪市東住吉区杭全4-10-12	1名
252	鷹合小学校	大阪市東住吉区鷹合3-12-38	1名
253	今川小学校	大阪市東住吉区今川4-24-4	1名
254	矢田小学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	1名
255	矢田東小学校	大阪市東住吉区住道矢田2-7-43	1名
256	矢田西小学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-15-43	1名
257	矢田北小学校	大阪市東住吉区照ヶ丘矢田2-1-55	1名
258	湯里小学校	大阪市東住吉区湯里6-8-3	1名
259	長谷川小学校	柏原市円明町3-15	1名
260	喜連小学校	大阪市平野区喜連7-6-4	1名
261	平野西小学校	大阪市平野区背戸口4-1-31	1名
262	平野小学校	大阪市平野区平野宮町1-9-29	1名
263	長吉小学校	大阪市平野区長吉長原2-6-55	1名
264	瓜破小学校	大阪市平野区瓜破5-3-11	1名
265	加美小学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-35	1名
266	加美南部小学校	大阪市平野区加美南1-9-17	1名
267	平野南小学校	大阪市平野区平野南2-3-8	1名
268	長吉東小学校	大阪市平野区長吉出戸8-8-41	1名
269	喜連西小学校	大阪市平野区喜連西3-17-61	1名
270	長吉南小学校	大阪市平野区長吉六反3-2-17	1名
271	瓜破北小学校	大阪市平野区瓜破1-8-33	1名
272	長原小学校	大阪市平野区長吉長原東3-10-9	1名
273	喜連東小学校	大阪市平野区喜連東2-2-17	1名
274	瓜破東小学校	大阪市平野区瓜破東2-5-78	1名
275	加美北小学校	大阪市平野区加美北7-4-10	1名
276	長吉出戸小学校	大阪市平野区長吉出戸3-1-43	1名
277	瓜破西小学校	大阪市平野区瓜破西2-1-43	1名
278	喜連北小学校	大阪市平野区喜連1-7-4	1名
279	加美東小学校	大阪市平野区加美東5-9-25	1名
280	川辺小学校	大阪市平野区長吉川辺1-4-9	1名
281	新平野西小学校	大阪市平野区背戸口1-5-22	1名
282	天下茶屋小学校	大阪市西成区聖天下1-11-35	1名
283	岸里小学校	大阪市西成区千本中1-8-22	1名
284	玉出小学校	大阪市西成区玉出中2-13-48	1名
285	千本小学校	大阪市西成区千本中2-8-8	1名
286	橘小学校	大阪市西成区橘2-1-29	1名
287	梅南津守小学校	大阪市西成区梅南3-2-25	1名
288	松之宮小学校	大阪市西成区旭3-5-39	1名
289	長橋小学校	大阪市西成区長橋2-3-21	1名
290	北津守小学校	大阪市西成区北津守3-3-40	1名
291	南津守小学校	大阪市西成区南津守6-1-14	1名
292	新今宮小学校	大阪市西成区花園北1-8-32	1名

大阪市立中学校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	天満中学校	大阪市北区神山町12-9	2名
2	北稜中学校	大阪市北区天満橋1-1-58	2名
3	大淀中学校	大阪市北区大淀中2-1-11	2名
4	豊崎中学校	大阪市北区本庄東3-4-8	2名
5	新豊崎中学校	大阪市北区長柄東2-2-30	2名
6	弘済中学校	吹田市古江台6-2-2	2名
7	弘済中学校分校	高槻市奈佐原956	2名
8	高倉中学校	大阪市都島区御幸町1-1-10	2名
9	桜宮中学校	大阪市都島区東野田町5-16-10	2名
10	都島中学校	大阪市都島区中野町3-9-33	2名
11	淀川中学校	大阪市都島区毛馬町3-5-12	2名
12	友渕中学校	大阪市都島区友渕町1-5-151	2名
13	八阪中学校	大阪市福島区鷺洲6-1-13	2名
14	下福島中学校	大阪市福島区玉川1-4-11	2名
15	野田中学校	大阪市福島区吉野5-9-4	2名
16	春日出中学校	大阪市此花区春日出南1-2-8	2名
17	梅香中学校	大阪市此花区春日出北3-12-24	2名
18	此花中学校	大阪市此花区高見2-14-31	2名
19	咲くやこの花中学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
20	東中学校	大阪市中央区大手前4-1-5	2名
21	南中学校	大阪市中央区島之内1-10-23	2名
22	上町中学校	大阪市中央区上本町西3-2-30	2名
23	西中学校	大阪市西区千代崎3-1-43	2名
24	花乃井中学校	大阪市西区江戸堀2-8-29	2名
25	堀江中学校	大阪市西区南堀江3-5-7	2名
26	市岡中学校	大阪市港区磯路1-5-21	2名
27	港中学校	大阪市港区池島1-5-35	2名
28	港南中学校	大阪市港区三先1-5-28	2名
29	市岡東中学校	大阪市港区市岡元町3-2-18	2名
30	築港中学校	大阪市港区築港1-2-41	2名
31	大正東中学校	大阪市大正区三軒家東4-4-30	2名
32	大正中央中学校	大阪市大正区小林東3-23-5	2名
33	大正西中学校	大阪市大正区南恩加島6-14-37	2名
34	大正北中学校	大阪市大正区北村3-1-1	2名
35	天王寺中学校	大阪市天王寺区北河堀町6-20	2名
36	夕陽丘中学校	大阪市天王寺区小宮町6-28	2名
37	高津中学校	大阪市天王寺区城南寺町1-31	2名
38	難波中学校	大阪市浪速区塩草1-1-59	2名
39	日本橋中学校	大阪市浪速区日本橋西1-7-6	2名
40	木津中学校	大阪市浪速区戎本町1-3-46	2名
41	淀中学校	大阪市西淀川区大和田6-13-6	2名
42	西淀中学校	大阪市西淀川区姫島6-10-5	2名
43	歌島中学校	大阪市西淀川区歌島2-11-9	2名
44	佃中学校	大阪市西淀川区佃2-15-93	2名
45	十三中学校	大阪市淀川区十三東5-1-27	2名
46	新北野中学校	大阪市淀川区新北野2-13-37	2名
47	三国中学校	大阪市淀川区西三国2-5-24	2名
48	美津島中学校	大阪市淀川区加島1-54-41	2名
49	東三国中学校	大阪市淀川区東三国6-3-68	2名
50	宮原中学校	大阪市淀川区西宮原3-3-2	2名
51	淡路中学校	大阪市東淀川区西淡路4-25-53	2名
52	柴島中学校	大阪市東淀川区柴島2-8-36	2名
53	瑞光中学校	大阪市東淀川区瑞光4-9-37	2名
54	中島中学校	大阪市東淀川区東中島4-8-38	2名
55	東淀中学校	大阪市東淀川区豊里6-25-19	2名
56	井高野中学校	大阪市東淀川区井高野2-8-13	2名
57	新東淀中学校	大阪市東淀川区豊里1-10-32	2名

58	大桐中学校	大阪市東淀川区大桐4-5-8	2名
59	東陽中学校	大阪市東成区深江北2-5-7	2名
60	本庄中学校	大阪市東成区東中本3-14-2	2名
61	玉津中学校	大阪市東成区玉津1-12-36	2名
62	相生中学校	大阪市東成区神路2-8-16	2名
63	大池中学校	大阪市生野区中川6-3-6	2名
64	桃谷中学校	大阪市生野区勝山北3-13-44	2名
65	生野中学校	大阪市生野区生野西3-5-40	2名
66	東生野中学校	大阪市生野区新今里7-9-25	2名
67	田島中学校	大阪市生野区田島5-23-7	2名
68	翼中学校	大阪市生野区翼中3-17-20	2名
69	新生野中学校	大阪市生野区翼東3-3-12	2名
70	新翼中学校	大阪市生野区翼南4-2-53	2名
71	旭陽中学校	大阪市旭区高殿5-9-31	2名
72	大宮中学校	大阪市旭区中宮4-7-11	2名
73	旭東中学校	大阪市旭区新森6-7-25	2名
74	今市中学校	大阪市旭区大宮5-13-40	2名
75	放出中学校	大阪市城東区放出西3-12-10	2名
76	蒲生中学校	大阪市城東区中央3-9-24	2名
77	城陽中学校	大阪市城東区嶋野西3-3-64	2名
78	董中学校	大阪市城東区古市1-18-4	2名
79	城東中学校	大阪市城東区永田3-3-58	2名
80	鯉江中学校	大阪市城東区今福西4-7-20	2名
81	茨田中学校	大阪市鶴見区諸口3-4-44	2名
82	緑中学校	大阪市鶴見区鶴見6-6-11	2名
83	茨田北中学校	大阪市鶴見区茨田大宮1-1-31	2名
84	今津中学校	大阪市鶴見区今津中1-3-55	2名
85	横堤中学校	大阪市鶴見区横堤1-11-27	2名
86	昭和中学校	大阪市阿倍野区桃ヶ池町2-3-17	2名
87	文の里中学校	大阪市阿倍野区美章園1-5-52	2名
88	阪南中学校	大阪市阿倍野区北畠1-16-24	2名
89	松虫中学校	大阪市阿倍野区松虫通3-4-45	2名
90	阿倍野中学校	大阪市阿倍野区昭和町3-2-4	2名
91	住吉第一中学校	大阪市住之江区粉浜西1-5-11	2名
92	加賀屋中学校	大阪市住之江区西加賀屋2-9-20	2名
93	住之江中学校	大阪市住之江区御崎8-1-6	2名
94	新北島中学校	大阪市住之江区新北島8-2-46	2名
95	南港北中学校	大阪市住之江区南港中4-3-39	2名
96	南港南中学校	大阪市住之江区南港中3-5-14	2名
97	真住中学校	大阪市住之江区御崎2-2-32	2名
98	水都国際中学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
99	三稜中学校	大阪市住吉区千駄1-5-22	2名
100	我孫子中学校	大阪市住吉区我孫子東1-4-32	2名
101	住吉中学校	大阪市住吉区帝塚山西3-5-6	2名
102	大和川中学校	大阪市住吉区遠里小野2-11-4	2名
103	東我孫子中学校	大阪市住吉区苅田1-16-2	2名
104	墨江丘中学校	大阪市住吉区墨江4-15-34	2名
105	大領中学校	大阪市住吉区大領4-3-25	2名
106	我孫子南中学校	大阪市住吉区浅香1-8-55	2名
107	田辺中学校	大阪市東住吉区南田辺4-7-24	2名
108	東住吉中学校	大阪市東住吉区桑津5-17-25	2名
109	中野中学校	大阪市東住吉区中野4-4-25	2名
110	矢田中学校	大阪市東住吉区住道矢田9-7-55	2名
111	白鷺中学校	大阪市東住吉区今川1-2-21	2名
112	矢田南中学校	大阪市東住吉区矢田3-4-27	2名
113	矢田西中学校	大阪市東住吉区公園南矢田2-12-47	2名
114	長谷川中学校	柏原市円明町3-15	2名
115	摂陽中学校	大阪市平野区平野西3-4-7	2名
116	平野中学校	大阪市平野区背戸口1-16-26	2名

117	長吉中学校	大阪市平野区長吉長原東1-6-15	2名
118	瓜破中学校	大阪市平野区瓜破2-5-31	2名
119	加美中学校	大阪市平野区加美正覚寺3-13-46	2名
120	長吉西中学校	大阪市平野区長吉長原西3-8-21	2名
121	喜連中学校	大阪市平野区喜連西6-2-11	2名
122	長吉六反中学校	大阪市平野区長吉六反4-9-61	2名
123	瓜破西中学校	大阪市平野区瓜破西2-12-22	2名
124	加美南中学校	大阪市平野区加美南1-10-15	2名
125	平野北中学校	大阪市平野区平野宮町1-8-55	2名
126	天下茶屋中学校	大阪市西成区橘1-8-2	2名
127	今宮中学校	大阪市西成区花園北1-8-32	2名
128	成南中学校	大阪市西成区千本中1-17-10	2名
129	鶴見橋中学校	大阪市西成区長橋3-9-23	2名
130	玉出中学校	大阪市西成区玉出西1-15-37	2名
131	梅南中学校	大阪市西成区梅南3-3-17	2名

大阪市立高校一覧

No.	学校名	所在地	受け入れ可能人数
1	大阪市立桜宮高等学校	大阪市都島区毛馬町5-22-28	2名
2	大阪市立東高等学校	大阪市都島区東野田町4-15-14	2名
3	大阪市立南高等学校	大阪市中央区谷町6-17-32	2名
4	大阪市立西高等学校	大阪市西区北堀江4-7-1	2名
5	大阪市立汎愛高等学校	大阪市鶴見区今津中2-1-52	2名
6	大阪市立高等学校	枚方市北中振2-8-1	2名
7	大阪市立淀商業高等学校	大阪市西淀川区野里3-3-15	2名
8	大阪市立鶴見商業高等学校	大阪市鶴見区緑2-10-9	2名
9	大阪市立住吉商業高等学校	大阪市住之江区御崎7-12-55	2名
10	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	大阪市天王寺区烏ヶ辻2-9-26	2名
11	大阪市立水都国際高等学校	大阪市住之江区南港中3-7-13	2名
12	大阪市立都島工業高等学校	大阪市都島区善源寺町1-5-64	2名
13	大阪市立泉尾工業高等学校	大阪市大正区泉尾5-16-7	2名
14	大阪市立東淀工業高等学校	大阪市淀川区加島1-52-81	2名
15	大阪市立生野工業高等学校	大阪市生野区生野東2-3-66	2名
16	大阪市立工芸高等学校	大阪市阿倍野区文の里1-7-2	2名
17	大阪市立扇町総合高等学校	大阪市北区松ヶ枝町1-38	2名
18	大阪市立咲くやこの花高等学校	大阪市此花区西九条6-1-44	2名
19	大阪市立中央高等学校	大阪市中央区釣鐘町1-1-5	2名

実習施設一覧 緑地環境科学インターンシップ

No.	施設名	所在地	授業科目名称	受入人数
1	農林水産省近畿農政局	〒602-8054 京都市上京区西洞院通下長者町下る丁子風呂町	緑地環境科学インターンシップ	3～5名
2	農林水産省北陸農政局	〒920-8566 石川県金沢市広坂2-2-60	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
3	農林水産省中国四国農政局	〒700-8532 岡山市北区下石井1-4-1	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
3	農林水産省東海農政局	〒460-8516 愛知県名古屋市中区三の丸1-2-2	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
4	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農研機構 農村工学研究部門	〒305-8517 茨城県つくば市観音台3-1-1	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
5	国土交通省北海道開発局札幌河川事務所	〒060-8506 札幌市南区南3 2条西8丁目2-1	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
6	大阪府環境農林水産部	〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16	緑地環境科学インターンシップ	2～3名
7	大阪府都市整備部	〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目	緑地環境科学インターンシップ	2～3名
8	大阪市建設局（造園系職）	〒553-0005 大阪市福島区野田1丁目1番86号 中央卸売市場本場業務管理棟 6階	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
9	大阪市建設局（建設系職）	〒559-0034 大阪市住之江区南港北2丁目1番10号 ATCビルITM棟6階	緑地環境科学インターンシップ	2～3名
10	貝塚市	〒597-0072 大阪府貝塚市畠中1丁目	緑地環境科学インターンシップ	1名
11	泉佐野市	〒598-0005 大阪府泉佐野市市場東1丁目	緑地環境科学インターンシップ	1名
12	公益財団法人環境科学技術研究所	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁字家ノ前1-7	緑地環境科学インターンシップ	1名
13	公益社団法人 大阪府自然環境保全協会	〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋 202	緑地環境科学インターンシップ	5～10名
14	一般財団法人 大阪府公園協会	〒556-0017 大阪市浪速区湊町2丁目1番57号 難波サンケイビル 14階	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
15	一般財団法人 大阪スポーツみどり財団	〒552-0005 大阪市港区田中3-1-40 大阪市中央体育館内	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
16	河内長野市 滝畑ふるさと文化財の森センター	〒586-0072 大阪府河内長野市滝畑483-3	緑地環境科学インターンシップ	1名
17	東邦レオ株式会社	〒540-0005 大阪市中央区上町1丁目1番28号	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
18	パシフィックコンサルタンツ株式会社	〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜一丁目2番1号（新ダイビル）	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
19	株式会社建設環境研究所	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場1-15-14 堺筋稲畑ビル5階	緑地環境科学インターンシップ	1～2名

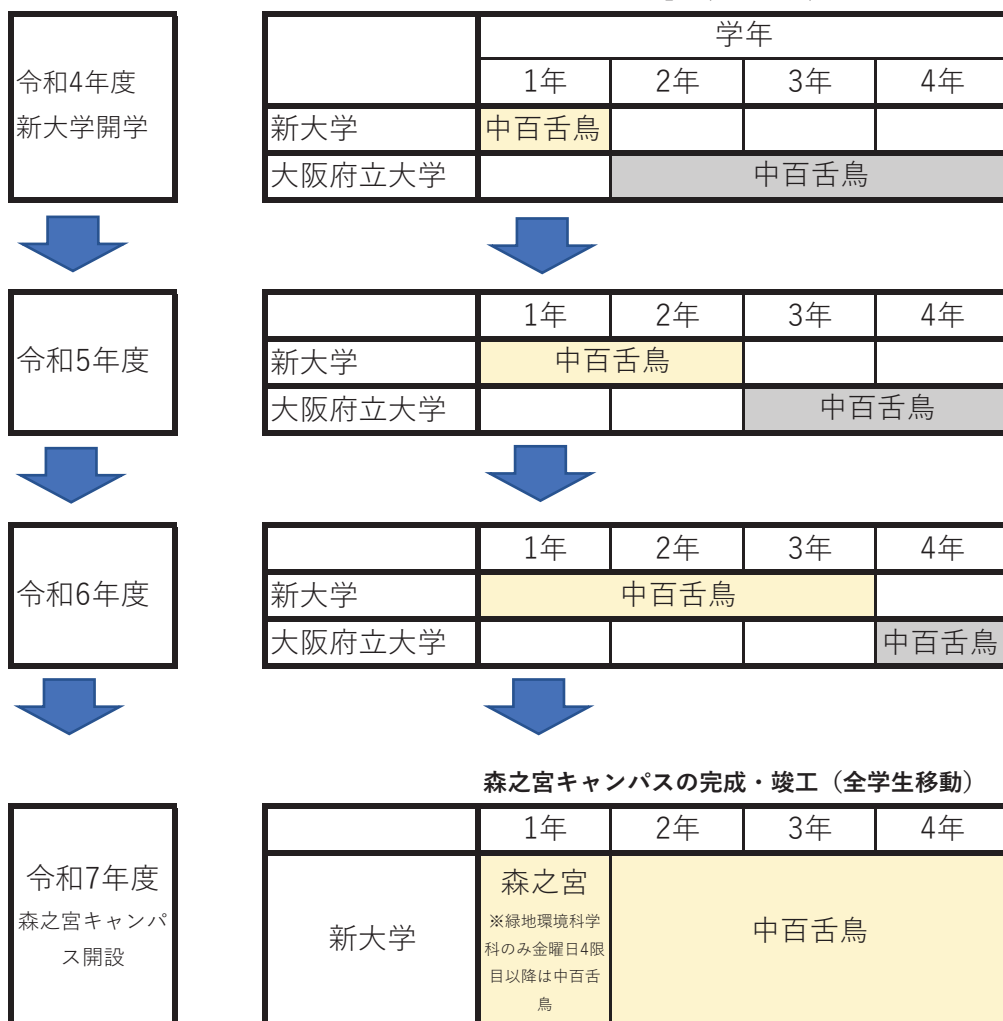
No.	施設名	所在地	授業科目名称	受入人数
20	環境設計株式会社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-2	緑地環境科学インターンシップ	1～2名
21	キタイ設計株式会社	〒521-1398 滋賀県近江八幡市安土町上豊浦1030番地	緑地環境科学インターンシップ	1～2名

農学部キャンパスの遷移

新大学 新キャンパス整備に伴う校地（教育実施場所）遷移について

学部

1年次「基幹教育」（共通教育）は中百舌鳥キャンパス



※在籍する大阪府立大学学域生も必要な一部授業を除いては新大学学部生と同じ

授業名称		担当教員氏名	
応用生物科学インターンシップ		青木考、小泉望、高野順平、東條元昭、横井修司、佐々木伸大	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
1	3 通	選択	実習

授業概要
インターンシップは、学生が企業等において実習を体験する制度である。本科目では、応用生物科学および学際領域における専門性の高い体験実習を実社会（官公庁や民間企業など）において行う。実習を通し、専門領域に対する社会的要請や専門領域の社会における位置づけを理解し、実社会への対応能力を向上させることを目的とする。また、応用生物科学科におけるその後の学修目標を明確化することも目的とする。学生は事前に実習先と連絡の上で実施計画書を作成し十分な準備の上で実習に臨む。実習後は内容をレポートにまとめる。
到達目標
以下の能力を身につけることを到達目標とする。 1. 応用生物科学に対する社会的要請や応用生物科学の社会における位置づけが理解できる。 2. インターンシップ先での仕事に必要な能力が理解できる。 3. 学修目標を見直して明確化できる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	実習生は担当教員と相談してインターンシップ先を検討する。	大学のキャリアサポート室や、企業のホームページなどを利用し実習先を選定し、事業内容を調べる。
第2回	実習開始以前に当該インターンシップ受け入れ先（実習先）と十分に協議する。	実習内容、実習先、実習期間等を記した実施計画書を作成し、担当教員に提出する。
第3回	実習期間中は、安全に十分留意し当該実習先の指導・指示にそって実習を進めると共に担当教員に随時経過報告を行う。1週間～10日間程度で実質総時間数30時間程度以上の実習を行う。	事前に実習内容について資料等で予習しておく。終了後は総括を行い、レポートを作成する。
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回	レポートを担当教員に提出し、内容を口頭でも説明し質疑を行う。実習報告会を行うこともある。	事前に報告会の資料を準備する。

シラバス作成様式

成績評価方法
実施計画書、レポート、実習先担当者の評価を総合して評価する。到達目標 1(応用生物科学に対する社会的要請や応用生物科学の社会における位置づけの理解ができる)、2(インターンシップ先での仕事に必要な能力が理解できる)、3(学修目標を見直して明確化できる)について達成度を評価する。
履修上の注意
大学の授業期間中での実習は原則不可とする。経費は自己負担とする。「学生教育研究災害傷害保険(学研災)」および「学研災付帯賠償責任保険(インターン賠)」へ加入する。実習先には「インターンシップ修了書」の発行を事前に依頼しておく。
教科書
なし
参考文献
なし

授業名称		担当教員氏名	
生命機能化学インターンシップ		谷森 紳治、乾 隆、片岡 道彦、阪本 龍司、 山地 亮一、秋山 康紀、渡邊 義之、藤枝 伸 宇	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3 通	選択	実習

授業概要
民間企業、研究機関、あるいは官公庁等の職務内容を調査し、専門領域に関する社会的要請や社会における位置づけを理解し、専門領域に対する問題意識や学習目標を明確化し、実社会への対応能力、将来の進路選択能力を養成する。そのために、学生は事前に実習先と連絡の上で実施計画書を作成し十分な準備の上で実習に臨む。実習後はその内容をレポートにまとめる。
到達目標
当学科で開講されていない生命機能化学に係わる学際領域を含めた生命機能化学領域における専門性の高い体験実習を、実社会（民間企業や官公庁等）において行う。実習を通し、専門領域に対する社会的要請や専門領域の社会における位置づけを理解し、専門領域に対する問題意識の向上並びに学習目標の明確化、実社会への対応能力の向上と将来の進路啓発などを図る。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	実習生は、生命機能化学科の担当教員と相談してインターンシップ先を検討する。（課題設定とマスタープラン）	インターンシップ希望先について、業務内容等を事前にホームページなどでよく調べておく。
第2回	実習開始以前に当該インターンシップ受け入れ先（実習先）と十分に協議する。	インターンシップ希望先について、業務内容等を事前にホームページなどでよく調べておく。実習計画を準備する。
第3回	実習内容、実習先、実習期間等に関する実習計画書を提出し、実習先を決定する。（実習全般に関する協議）	実習先と実習内容、日程等についてよく打ち合わせをする。
第4回	実習期間中は、安全に十分留意し当該実習先の指導・指示にそって実習を進めると共に担当教員に随時経過報告を行う。なお、実習時間は概ね 30 時間程度以上とする。 （実習計画・指導等に基づく実習実施と安全確保および経過報告）	事前に実習内容について資料等で予習しておく。終了後は総括を行い、レポート作成の準備を行うとともに次の実習に備える。
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		

シラバス作成様式

第11回		
第12回		
第13回		
第14回	実習後は、所定の実習報告書を作成し、担当 教員に提出する。実習報告会を行うこともあ る。（報告書作成と発表）	実習報告書の作成を行う。
第15回		報告会の資料を準備する。

成績評価方法
授業目標の達成度に基づき成績評価を行う。 学生の実習レポート（50%）、受け入れ先からの評価シートの内容（50%）に基づき評価する。 60%以上が合格の目安となる。
履修上の注意
インターン実施手順については、別途定める。
教科書
実習計画書・実習先の指導書など。
参考文献
関連学協会の文献・資料や、インターン先の配布資料など。

授業名称		担当教員氏名	
緑地環境科学インターンシップ		山田宏之・渋谷俊夫・堀野治彦・坂田賢（2023年度～）・加我宏之・藤原宣夫（～2024年度まで）・今西純一・平井規央・青野靖之・植山雅仁・谷川寅彦・木全卓・中桐貴生・西浦芳史・武田重昭・中村彰宏・上田昇平・遠藤良輔・櫻井伸治・工藤庸介・松尾薫・上田萌子・大塚芳嵩	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3通	選択	演習

授業概要
緑地環境科学類の担当教員と相談してインターンシップ先を検討する。実習開始以前に当該インターンシップ受け入れ先（実習先）と十分に協議する。実習内容、実習先、実習期間等に関する実習計画書を提出し、実習先を決定する。実習期間中は、安全に十分留意し当該実習先の指導・指示にそって実習を進めると共に担当教員に随時経過報告を行う。実習後は、速やかに所定の実習報告書を作成し、担当教員に提出、必要な場合には、実習報告会を行う。
到達目標
当該学科で開講されていない緑地環境科学に係わる学際領域を含めた専門性の高い体験実習を実社会（官公庁、民間企業並びに学校等）において行うことによって、専門領域に対する社会的要請や社会における位置づけを理解し、専門領域に対する問題意識の向上並びに学習目標の明確化、実社会への対応能力の向上と将来の進路啓発などを図る。 授業の達成目標としては、以下の点を意識する。 1. 実習期間に応じた無理のない計画を受け入れ機関と調整し整理・提案できること。 2. これまで身につけた専門知識の学外での実践意義を社会的要請を踏まえて説明できること。 3. 実社会での不測の事態に臨機応変に対応する技量を少しでも養うこと。 4. 実習の内容を自主的、計画的に遂行し、その成果をとりまとめる能力を身につけること。 5. 最終的に実習報告書を作成し、プレゼンにより他者にわかりやすく説明できること。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	実習生は、緑地環境科学類の担当教員と相談してインターンシップ先を検討する。（課題設定とマスタープラン）	実習前には必要となる専門分野の知識を復習し、必携と思われる資料の準備などを実習先の担当者とはよく打ち合わせておくこと。
第2回	実習開始以前に当該インターンシップ受け入れ先（実習先）と十分に協議する。	
第3回	実習内容、実習先、実習期間等に関する実習計画書を提出し、実習先を決定する。（実習全般に関する協議）	
第4回	実習期間中は、安全に十分留意し当該実習先の指導・指示にそって実習を進めると共に担当教員に随時経過報告を行う。なお、実習時間は概	

	ね 40 時間以上とする。 (実習計画・指導等に基づく実習実施と安全確保および経過報告)	
第5回	同上	
第6回	同上	
第7回	同上	
第8回	同上	
第9回	同上	
第10回	同上	
第11回	同上	
第12回	同上	
第13回	同上	
第14回	実習後は、所定の実習報告書を作成し、担当教員に提出する。実習報告会を行うこともある。 (報告書作成と発表)	
第15回	同上	
第16回	同上	

成績評価方法
原則、授業目標 1 ～ 5 の達成度で成績評価を行う。合格 (C 以上) となるためには、各達成目標に関わる以下の成績評価において合計 60% 以上の評点をとることが必要である。 実習計画書、実習報告書並びに実習先からの報告書等に基づき評価を行う。
履修上の注意
インターンシップであるため、原則として実習先の求めに応じ、すべてを自主的に考え能動的に対応する必要がある。 少なくとも実習前には必要となる専門分野の知識を復習し、必携と思われる資料の準備などを実習先の担当者とよく打ち合わせておく。また、実習中に求められる知識や技量の不足などに備え、適宜情報収集やトレーニングによる対応策へのアプローチを考えておく。 上記の留意事項に加え、実習に望む態度や服装などについても事前によく考慮しておく必要がある。
教科書
実習計画書・実習先の指導書など。
参考文献
関連学協会の文献・資料等